

東京医科大学医学部看護学科

2022 年度卒業生アンケート

結果報告書



東京医科大学教育 IR センター

東京医科大学 看護同窓会

巻頭言

2022 年度卒業生アンケートに寄せて



東京医科大学 学長 林 由起子

この度、教育 IR センターを中心に実施・集計いたしました 2022 年度版卒業生アンケートの結果をまとめ、皆様のお手元にお届けできることとなりました。卒業生アンケートは毎年、卒業後一定の年数を経た方にご協力をお願いし、毎年継続して実施することとなりました。今年も多くの卒業生の皆様にご協力いただき、大変充実したものとなりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

医学・看護学教育は学問やめざましい技術の進歩に加え、国際化や急速に変化する社会のニーズにも対応できるよう、近年、著しい変化を続けており、医学科では定期的に大幅なカリキュラム改変が実施されると同時に、毎年、新たな取り組みを導入しております。看護学科は 2021 年度より、新カリキュラムが開始されました。

卒業生アンケートは、本学の学生教育の具体的な検証にとどまらず、頂戴した貴重なご意見を参考に、より良い教育を目指していく指標ともなります。また、同窓生の皆様のご活躍を通じて、「患者と共に歩む医療人を育てる」という本学のミッションの達成度も推し測ることが可能となります。

1つ1つのデータが多くのごことを示唆しております。ぜひ、じっくりとご覧いただき、ご意見、ご感想をお寄せいただけますと幸いです。また、今後とも本学の教育活動を見守っていただき、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3つのポリシーを踏まえた教育の実質化・質向上に向けて



東京医科大学医学部 看護学科長 阿部幸恵

令和4年度、大学設置基準の大きな改正が再びなされました。今回の改正は、

- ①「学修者本位の教育」の実現の考え方を質保証システムに反映させること
- ②必要な情報を社会に公表し社会との対話を進める「社会に開かれた質保証」を図ること

の2つを改正の方向性としています。そして、その方向性に沿って検討された改正の目的は、「3つのポリシーに基づく学位プログラムの編成」「学位プログラムを基礎とした内部質保証の取り組み」「内部質保証を通じた教育研究活動の不断の見直し」です。

各大学が内部質保証に基づいて教学の改善に向けた取り組みを進める中、改善に取り組む大学と努力が不十分な大学とに二極化していることも課題とされています。現在、完成年度以降の教学の質保証については、大学自らの自己点検・評価と認証評価機構による評価で行われています。東京医科大学においては、両学科の教育課程について、毎年、自己点検・評価を行い、課題改善に向けて取り組んでおります。また、看護学教育では2020年から日本看護学教育評価機構（Japan Accreditation Board for Nursing Education ; JABNE）による看護学の教育評価が始まっております。看護学科は、2022年度に受審し、評価機構が示す基準に「適合」と評価を受けることができました。この評価の基準の中にも「卒業後の評価」が含まれていることから基礎教育の成果を卒業生の姿や卒業生の視点からの看護学科の教育課程の評価が今後の改善・質向上には重要です。

看護学科では、2021年度から改正カリキュラムを導入し、2022年度には、カリキュラム評価の制度を構築し、今年度からは、「カリキュラム評価委員会」を設けています。大学の自己点検・評価そして、看護学教育評価の結果と看護学科のカリキュラム評価を連動させて、看護学科の教育の実質化に向けて、不断の努力を続けて、本学のミッションである「患者とともに歩む医療人」を輩出できるよう尽力していきます。

卒業生のみなさん、多忙な中、アンケートにご協力頂きましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、このアンケート調査を行い、分析してまとめて下さった教育 IR センターの皆様にも感謝申し上げます。この調査は継続していくことが重要です。今後とも、どうぞ、ご理解いただき、ご協力のほど、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

看護学科の卒業生アンケートに寄せて



東京医科大学看護同窓会会長 石塚 睦子

東京医科大学医学部看護学科が2020年で10周年を迎えられ、同窓の皆様が社会で活躍・貢献されていることに看護同窓会として嬉しく、心よりお慶び申し上げます。

そして、第1回の卒業生アンケートに引き続き、第2回の卒業生アンケートが行われたとのご報告を受け、東京医科大学医学部看護学科の卒業生から寄せられた貴重な情報が更に今後の看護教育、学生対応等の充実・向上に役立てられることを期待いたします。また、データ収集から結果・分析の整理に尽力された教職員の皆様、価値ある大変な作業、本当にお疲れ様でした。

結果を見ますと、カリキュラム満足度割合が8割以上と高く、年を経て益々満足者割合が増加傾向にありました。そして、卒業後、振り返ってみたときに、施設環境への満足度がとても高く、次いで教員が挙がっていたことも、東京医科大学に長らく所属し、お世話になった私としては嬉しい結果でした。卒業時到達目標に関しては、第1回アンケートと同様、「人間の生命と尊厳を尊重し、高い倫理観に基づいた健全な人間関係を形成できる」を達成したと答えた人が最も多く見られていました。看護職は、人間とそのいのち、健康への関わりを大切にすることを責務としていますので、卒業時到達目標に関する結果は、卒業生の皆様が、肝心なことを心に刻んで社会に羽ばたいていることを物語っていると考えました。

全体的には高評価と思いましたが、多様性のある人を対象に多様性のある人が行う看護教育は、ベストの評価を得る難しさがあると思います。課題の意見もありましたので、様々な意見を東京医科大学の今後の糧として、末永く東京医科大学の看護、ひいては日本の看護が発展していくことを祈っております。

最後に東京医科大学看護同窓会としても、微力ではありますが、これからも母校の発展を見守り、支援していきたいと思っております。

看護学科

目次

1. はじめに.....	6
2. 調査基本情報.....	6
2.1 調査概要.....	6
2.2 調査項目（資料を参照）.....	7
3. 調査結果.....	8
Q1. 卒業年.....	8
Q2. 性別.....	8
Q3. 卒業直後の進路.....	9
卒業直後に就職した人の	
Q4. 就職先.....	10
Q5. 職種.....	11
Q6. 雇用形態.....	11
Q7. 勤務の継続.....	12
Q8-1. 勤続年数.....	12
Q8-2. 退職理由.....	12
卒業直後に進学・そのほかの人の	
Q9. 現在の状況.....	13
Q10. 職種.....	14
Q11. 雇用形態.....	14
Q12. 勤続年数.....	15
Q13. 卒業後の意識の変化.....	16
Q14. 卒業後のボランティアや社会貢献活動への参加（自由記載）.....	16
Q15. 資格取得.....	17
Q16. 教育到達目標の達成度.....	17
Q17. カリキュラムの満足度.....	20
Q18. カリキュラムへの意見（自由記載）.....	24
Q19. 在学中にもっと学びたかった項目.....	26
Q20. 母校の良かった点.....	28
Q21. 母校の改善すべき点.....	32
Q22. 母校の総合的評価.....	36
Q23. 意見や要望.....	38
4. まとめ.....	40
<資料>	
1. 卒業生アンケート質問票.....	42
5. おわりに.....	49

1. はじめに

東京医科大学医学部看護学科は 2013 年に開設され、2022 年現在 10 年目を迎えている。2016 年度に初めて卒業生が誕生し、2021 年度末で 541 名が卒業した。

2013 年の薬学分野を皮切りに、日本でも高等教育における質保証を行う目的から医療系の専門分野における分野別評価が開始されている。分野別評価とは、その分野の教育活動について自己点検評価した内容が評価基準に適合しているかを問われるものである。看護学分野も、薬学（2013 年評価事業開始）、医学（2017 年評価事業開始）に次いで、2020 年に日本看護学教育評価機構（Japan Accreditation Board for Nursing Education ; JABNE）により、分野別評価を開始しており、2021 年度に東京医科大学医学部看護学科も受審をして、「適合」を得た。JABNE による評価項目には、「評価項目 3-3 雇用者・卒業生からの評価と改善」として「16. 卒業生に教育プログラムに対する満足度調査、卒業後の動向調査をしている」という内容が含まれており、卒業生からの評価は、自己点検のための重要な指標とされている。

以上を踏まえ本調査は、これまで東京医科大学医学部看護学科を卒業した卒業生を対象に、キャリアの実態・動向を把握すると共に、在学時のカリキュラムや学校環境等を卒業生の視点から評価することによって、今後の看護学科のカリキュラムや教育プログラムの改善に向けた基礎資料（エビデンス）を得ることを目的に行った。

2. 調査基本情報

2.1 調査概要

- ① 調査期間：2023 年 2 月 1 日～3 月 31 日
- ② 調査対象：2017 年 3 月卒から 2022 年 3 月卒までの卒業生
- ③ 調査方法：調査は、教育 IR センターにて調査用紙を作成し、web 上のアンケートシステム（今回は WEB CAS™）を使用した。調査依頼の郵送先名簿は、東京医科大学看護同窓会（以下、同窓会）より入手した。また、前回のアンケートにメールアドレスの記載のあった卒業生、総合事務センターにメールアドレスを報告した卒業生にはメールでも依頼を行った。回答は Web 回答であった。
- ④ 回収状況：
発送数：493 回答数：219
回答率：48.3%（未達 40 を除外して算出）
2017 年 3 月卒から 2022 年 3 月卒までの卒業生 541 名のうち、同窓会で住所を把握している 493 名に調査依頼を送付した。そのうちのメールアドレスを把握している 85 名の卒業生にはメールでも調査依頼を送付し、219 名から回答を得た。回収率は 48.3%だった。

表1 卒業年別卒業生数、回答数、回答率

卒業年	卒業生数	送付者数	未達者数	回答数	回答率 (%)
2017年	80	67	7	28	46.7
2018年	100	87	10	36	46.8
2019年	92	80	4	33	43.4
2020年	94	86	6	39	48.8
2021年	87	85	12	34	46.6
2022年	88	88	1	49	56.3
合計	541	493	40	219	48.3

表2 性別による卒業生数、回答数

	卒業生数	回答数
女性	522	216
男性	19	3

2.2 調査項目（巻末の調査用紙を参照）

属性に関する質問

Q1. 卒業年、Q2. 性別

卒業後のキャリアに関する質問

Q3. 卒業直後の進路、卒業直後に就職した人の Q4. 就職先、Q5. 職種、Q6. 雇用形態、Q7. 勤務の継続、Q8-1. 勤続年数、Q8-2. 退職理由、卒業直後に進学・その他の人の Q9. 現在の状況、Q10. 職種、Q11. 雇用形態、Q12. 勤続年数

卒業後の意識や行動の変化に関する質問

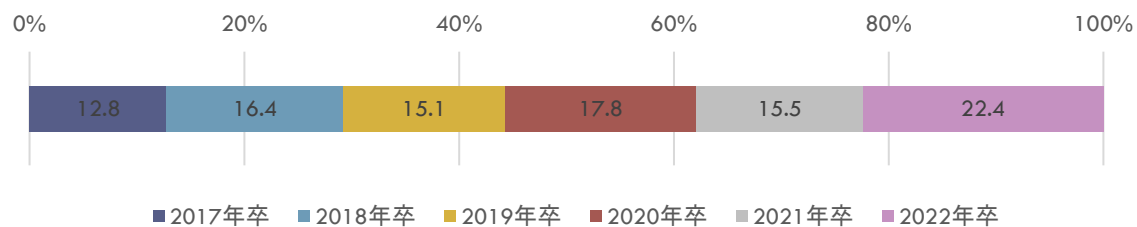
Q13. 卒業後の意識の変化、Q14. 卒業後のボランティアや社会貢献活動への参加、Q15. 資格取得

東京医科大学の教育についての質問

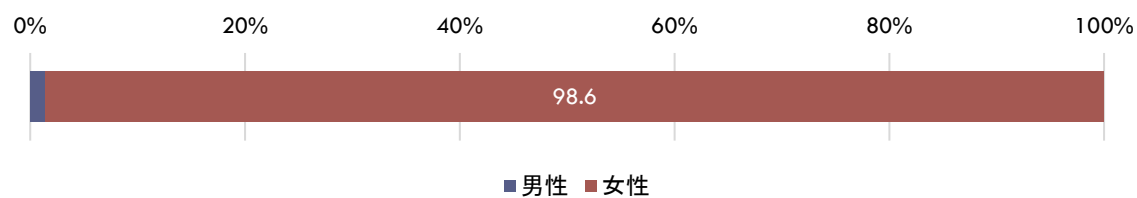
Q16. 現行の教育到達目標の評価、Q17. カリキュラムの満足度、Q18. カリキュラムへの意見（自由記載）、Q19. 学生時代にもっと学びたかった項目、Q20. 母校の良かった点、Q21. 母校の改善すべき点、Q22. 母校の総合的評価、Q23. 意見や要望（自由記載）

3. 調査結果

Q1. あなたの卒業年を教えてください。



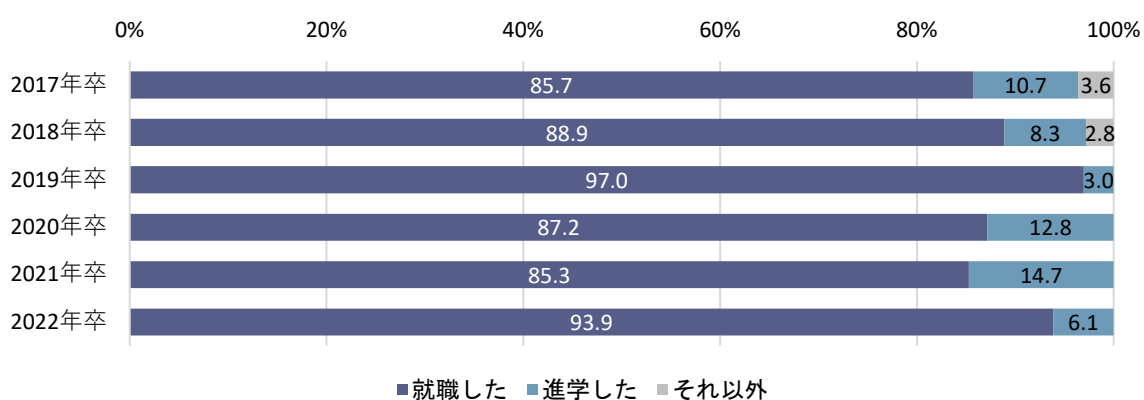
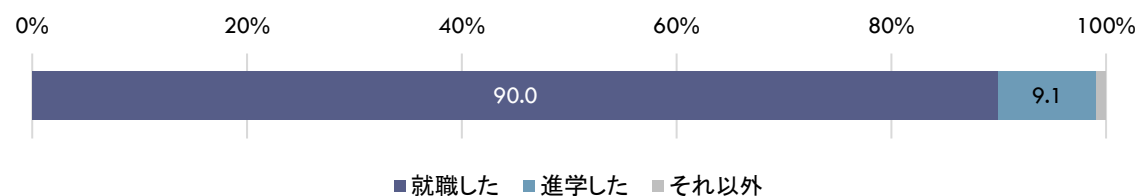
Q2. 性別を教えてください。



卒業後のキャリアについてお伺いします

Q3. 卒業直後の進路を教えてください。

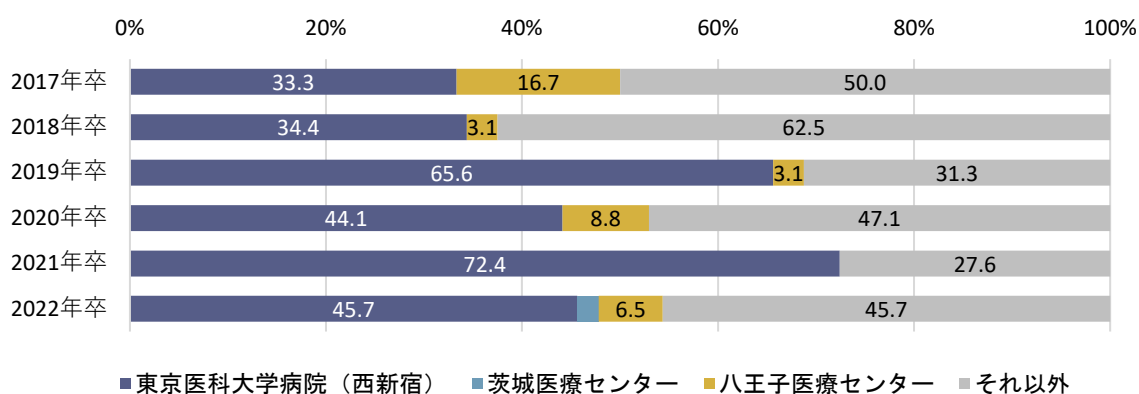
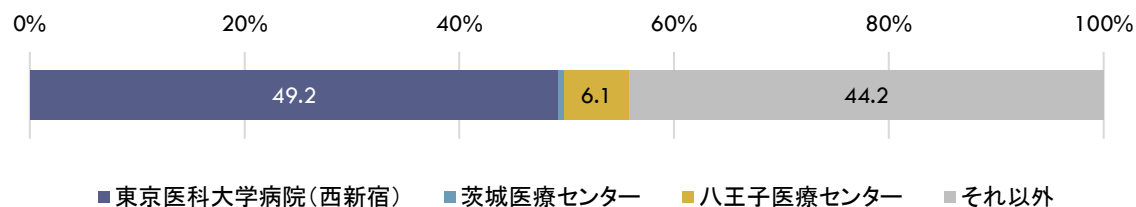
卒業直後は、全体として90.0%が就職していた。卒業別に見るといずれの卒業年も85%以上が就職している。進学者の割合は卒業年によって3.0%-14.7%と幅があった。



- ・ 「進学した」と回答した人の自由記述：日本赤十字助産師学校(2)、東京医療保健大学(2)、母子保健研修センター助産師学校(2)、上智大学助産学専攻科、首都大学東京助産学専攻科、湘南医療大学専攻科助産学専攻、茨城県立医療大学、聖路加国際大学大学院、神奈川県立衛生看護専門学校助産師学科、東京医療保健大学助産学専攻科、日本赤十字看護大学大学院、日本赤十字社助産師学校、日本大学大学院

Q4. (Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ) 卒業直後の就職先はどちらですか。

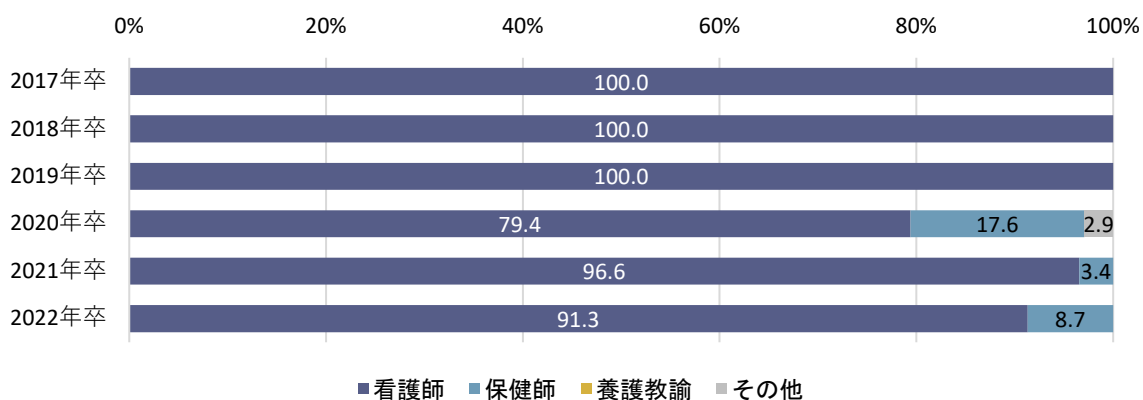
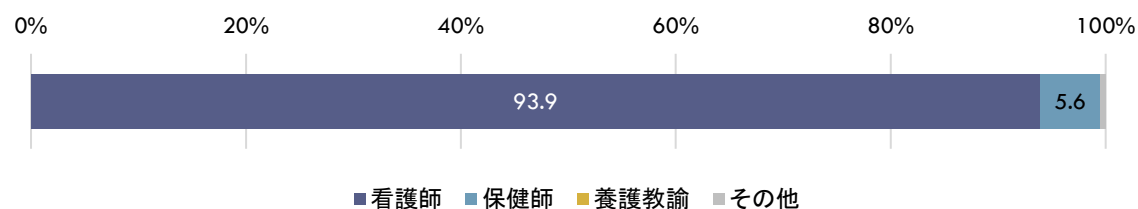
卒業直後は、全体として約半数が東京医科大学病院（西新宿）に就職している。卒業年別にみると、年代別で差がみられる。



- ・ 「それ以外」と回答した人の自由記述：国立国際医療研究センター（4）、虎の門病院（4）、東京医科歯科大学病院（4）、東京都立大塚病院（3）、順天堂大学医学部附属順天堂医院（3）、慶應義塾大学病院（2）、国立成育医療研究センター（2）、自治医科大学附属さいたま医療センター（2）、埼玉県庁（2）、虎の門病院分院、順天堂大学医学部附属浦安病院、がん研有明病院、国立がん研究センター中央病院、都立小児総合医療センター、横浜市立大学附属市民総合医療センター、埼玉県立小児医療センター、国立国際医療研究センター国府台病院、多摩総合医療センター、神奈川県立こども医療センター、東邦大学医療センター大森病院、館山病院、共済病院、九段坂病院、三井記念病院、昭和大学病院、新座志木中央総合病院、聖路加国際病院、千葉西総合病院、千葉大学病院、大学病院、筑波大学附属病院、東京武蔵野病院、東京通信病院、日本医科大学附属病院、陽和病院、立川相互病院、東大病院、東京大学、市役所、区役所、行政、滑川町役場、埼玉県（鴻巣保健所）、世田谷区烏山総合支所、藤沢市役所

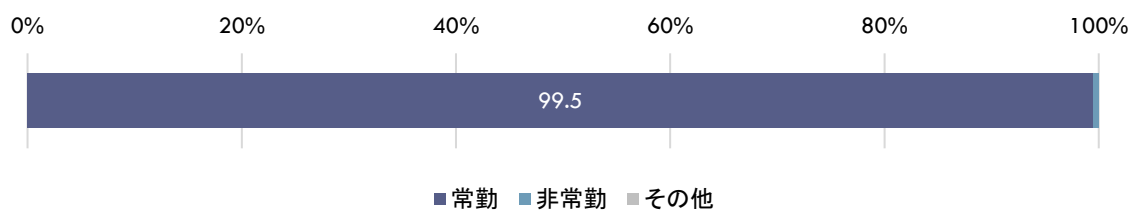
Q5. (Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ) 卒業直後の業務上の職種を教えてください。

卒業直後の就職時の職種は全体として 93.9%が看護師だが、保健師として就職している者も全体の 5.6%いた。卒業年別にみると、ばらつきはあるものの、2020 年卒以降、一定数、保健師就職の者がいる。



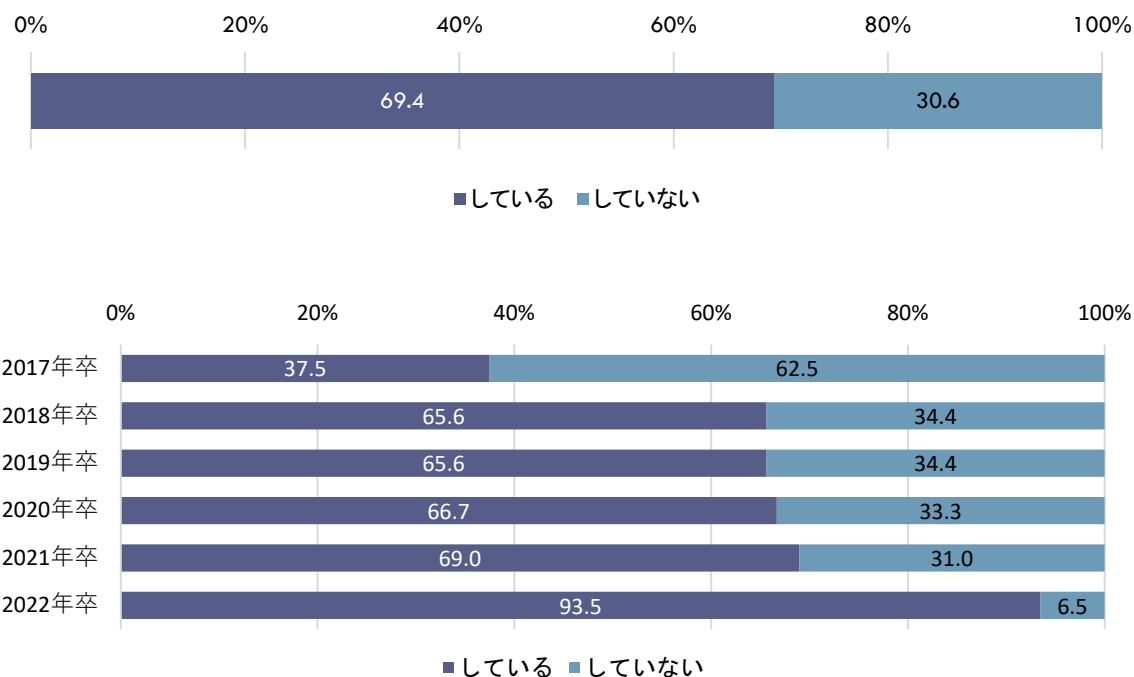
Q6. (Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ) 卒業直後の雇用形態を教えてください。

卒業直後の雇用形態は、99.5%が常勤であった。

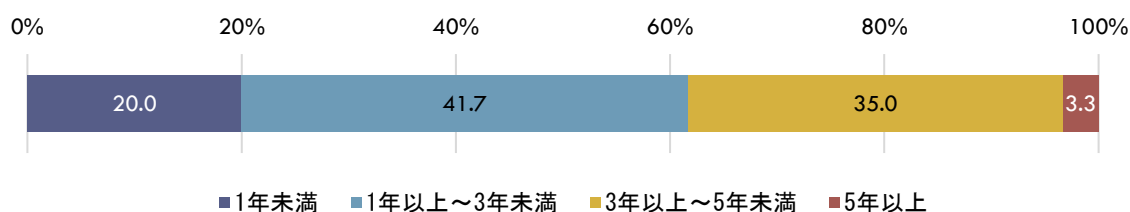


Q7. (Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ) 現在も同じ所に勤務していますか。

卒業直後に就職している者に、現在も勤務を継続しているかを尋ねた結果、継続している者は全体として 69.4%であった。卒業年別では、2017 年卒において同じところに勤務している者は 4 割弱であり、2022 年卒は既に 6.5%が卒業直後と同じところには勤務していない。



Q8-1. (Q3 で卒業直後に「就職した」と回答し、Q7 で現在も同じ所に勤務「していない」と回答した人へ) 卒業直後の勤務先の勤続年数を教えてください。



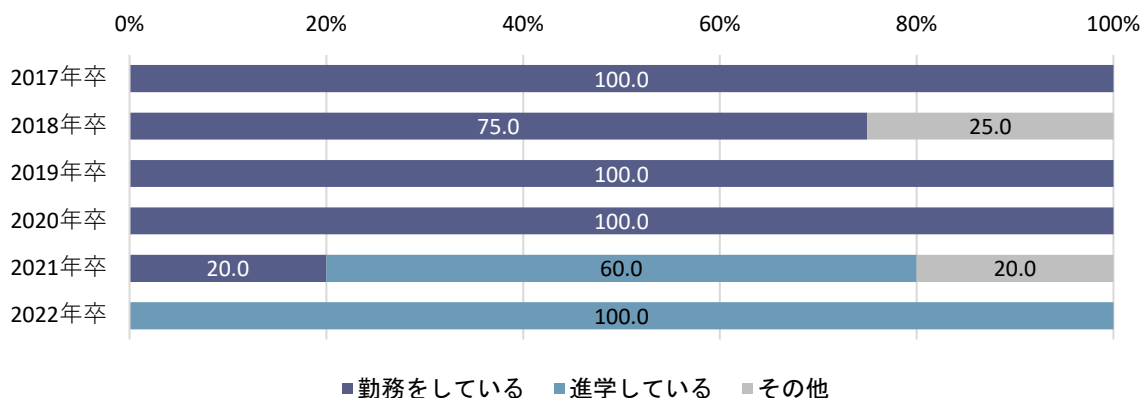
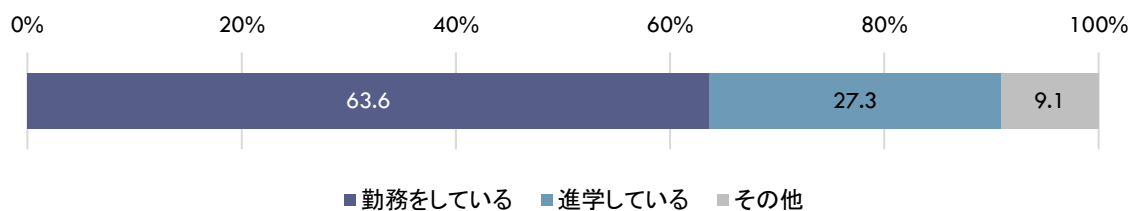
Q8-2. 退職理由を教えてください。

結婚・転居 (9)、転職 (保健師・養護教諭・地域の病院など) (9)、体調不良 (5)、キャリアアップのため (4)、人間関係 (4)、ハラスメント (3)、合わなかった (3)、海外留学 (2)、残業過多 (2)、在宅領域へチャレンジするため (2)、学校へ通うため、夜勤を辞めたかった、解雇、給料が安かった、教育制度への不満

Q9-Q12 は、卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した者（10.0%）への質問である。

Q9.（Q3 で卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した人へ）現在の状況を教えてください。

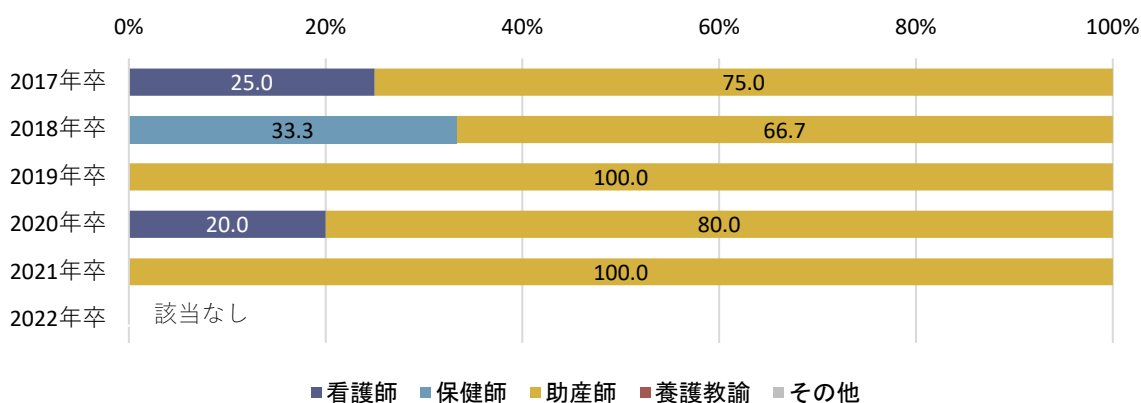
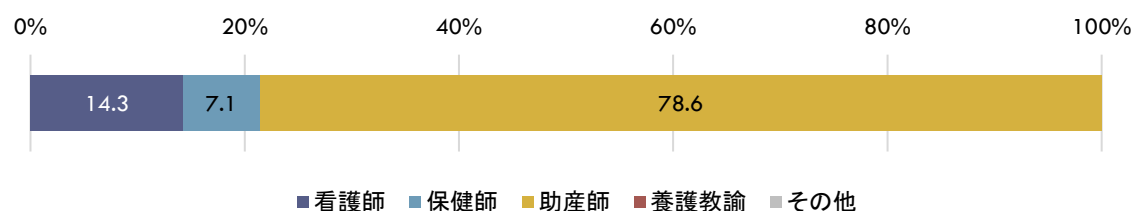
卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した者のうち、現在勤務している者は 63.6%であった。進学している 27.3%は、いずれも卒後 1 年目もしくは 2 年目の者だった。



- ・ 「勤務をしている」と回答した人の自由記述（具体的な勤務先名）：東京医科大学病院（3）、尚篤会赤心堂病院、昭和大学病院、昭和大学横浜市北部病院、筑波大学附属病院、東京葛飾赤十字母子医療センター、
- ・ 「進学している」と回答した人の自由記述（具体的な進学先名）：東京医療保健大学、東京医療保健大学助産学専攻科、東京医療保健大学大学院助産コース、聖路加国際大学、上智大学助産学専攻科、湘南医療大学専攻科助産学専攻（4月から入職予定）
- ・ 「その他」と回答した人の自由記述（具体的に）：主婦

Q10. (Q3で卒業直後は「進学した」「それ以外」で、Q9で現在は「勤務している」と回答した人へ) 現在の業務上の職種を教えてください。

卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答し、現在は「勤務している」と回答した者に現在の業務上の職種を尋ねたところ、助産師が78.6%、看護師が14.3%、保健師が7.1%だった。進学者の大半は、助産師資格取得を目的に進学していることが分かる。

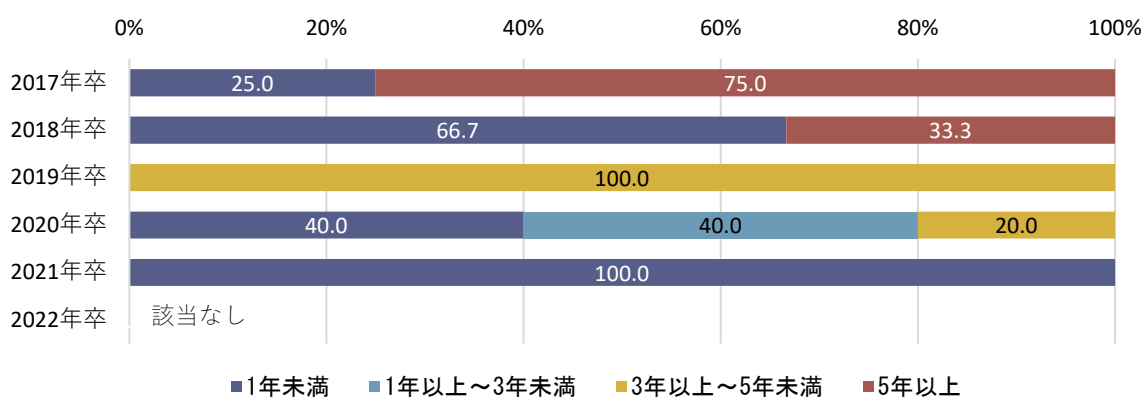
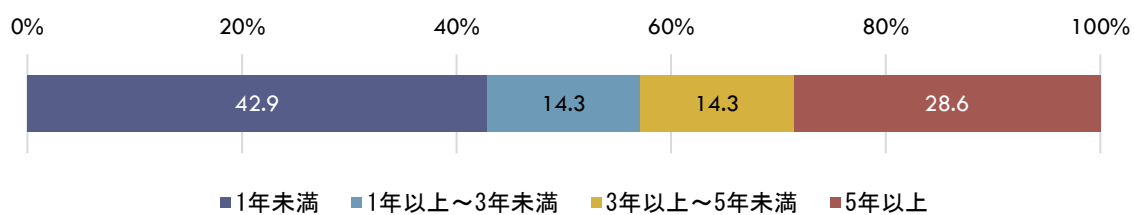


Q11. (Q3で卒業直後は「進学した」「それ以外」で、Q9で現在は「勤務している」と回答した人へ) 現在の雇用形態を教えてください。

卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した者に現在の雇用形態を尋ねたところ、全員が常勤であった。



Q12. (Q3で卒業直後は「進学した」「それ以外」で、Q9で現在は「勤務している」と回答した人へ) 現在の所属先の勤続年数を教えてください。

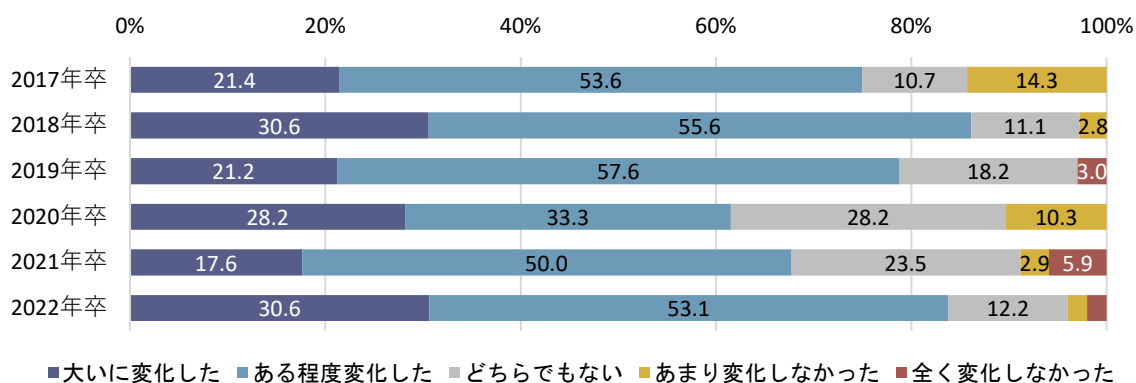
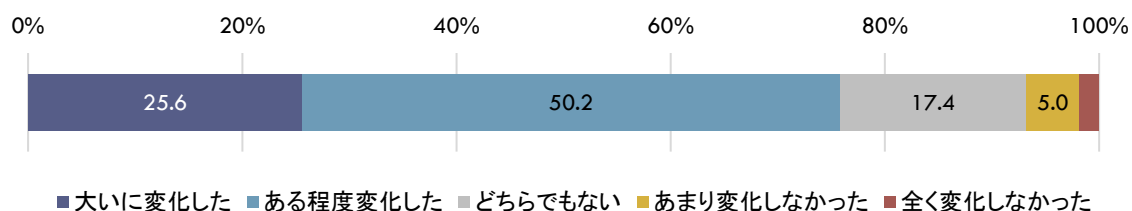


ここから全員に伺います。

卒業後の意識や行動の変化に関して伺います

Q13. 卒業して社会に出たことで、“医療職として社会に貢献するという意識”は変化しましたか。

変化した（「大いに变化した」と「ある程度变化した」の合計）が全体の75.8%に上った。卒業年ごとには顕著な傾向は見られなかった。



Q14. 卒業してから今まで、ボランティア活動や社会貢献活動に参加しましたか。具体的に教えてください。

- ・ 青少年相談員
- ・ 地域のイベントや暮らしの保健室開催、大腸がん検診啓発活動、若手多職種の勉強会開催、今年よりプライマリアケア学会に登壇予定赤十字社ボランティア。
- ・ 日本ウーマンズヘルス学会に参加。
- ・ 地域奉仕活動。
- ・ 介護認定審査会への参加。
- ・ ①子ども食堂への野菜寄付②ウクライナ避難民支援チャリティー講演会の実施（いずれも国際ロータリー第2840地区ローターアクト奉仕副委員長としての活動）
- ・ 日本看護科学学会への発表。
- ・ 海外で孤児へのボランティアに参加した。

専門看護師（CNS）・認定看護師（CN）の資格取得について伺います

Q15. 以下の資格を取得している人は、該当するものをお選びください。

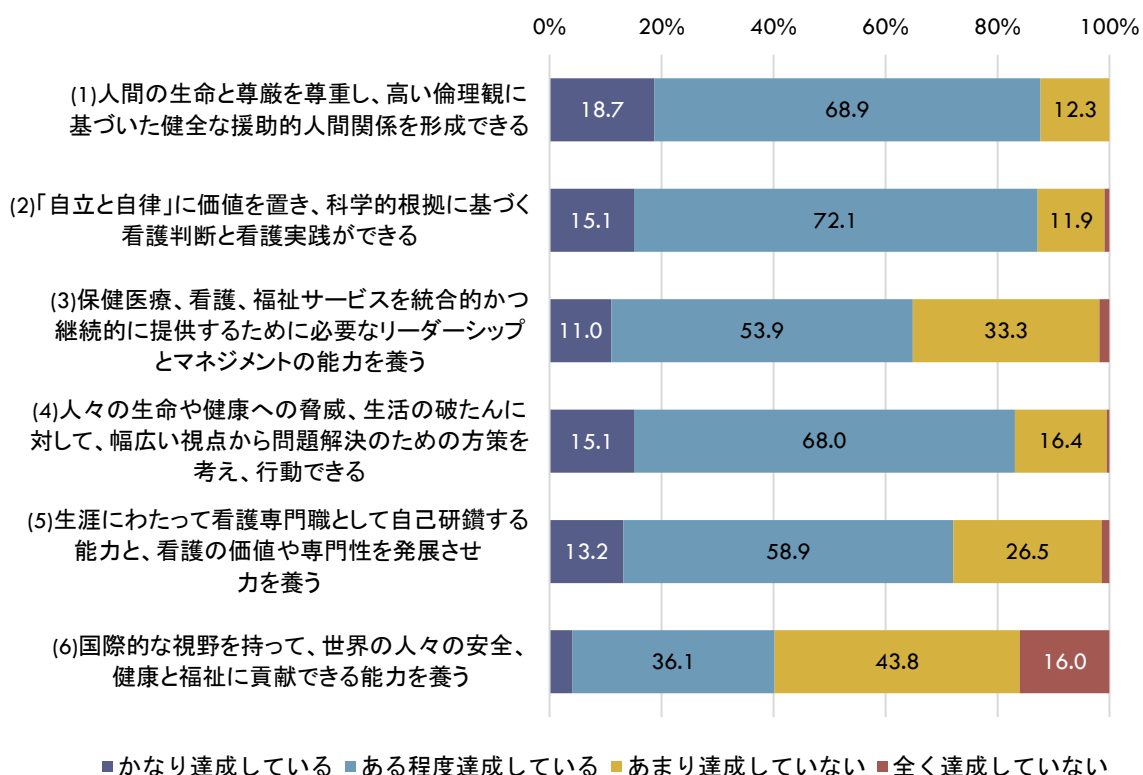
- ・ 認定看護師（CN）資格：新生児集中ケア（1名）

東京医科大学の教育について伺います

Q16. 以下は、「教育に関する卒業時到達目標」です。下記の内容について、現在、どの程度達成していますか。

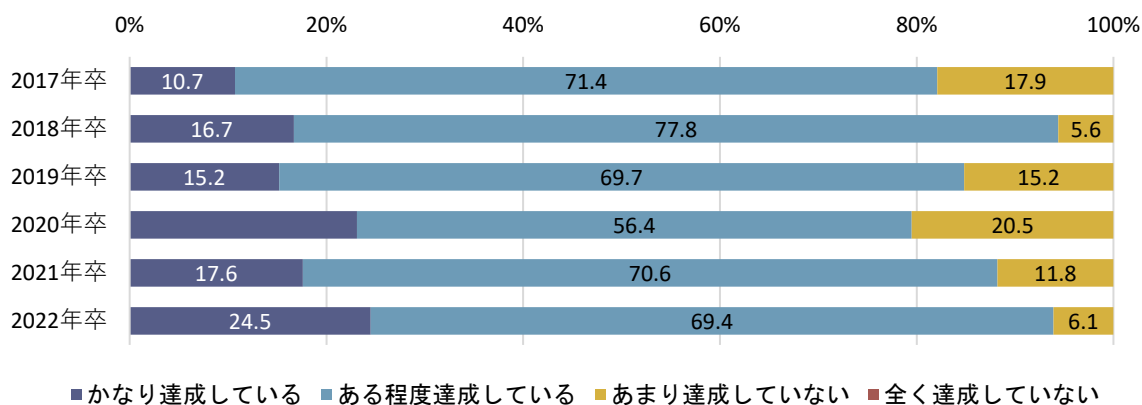
全体としては、「かなり達成している」「ある程度達成している」の割合が高かったのは、「(1) 人間の生命と尊厳を尊重し、高い倫理観に基づいた健全な援助的人間関係を形成できる」、「(2) 『自立と自律』に価値を置き、科学的根拠に基づく看護判断と看護実践ができる」であり、最も割合が低かったのは、「(6) 国際的な視野を持って、世界の人々の安全、健康と福祉に貢献できる能力を養う」だった。

卒業年別にみると、「(1) 人間の生命と尊厳を尊重し、高い倫理観に基づいた健全な援助的人間関係を形成できる」及び「(4) 人々の生命や健康への脅威、生活の破たんに対して、幅広い視点から問題解決のための方策を考え、行動できる」は、「かなり達成している」「ある程度達成している」を合計した割合が、卒業年が新しくなるにつれて割合が低くなっている。

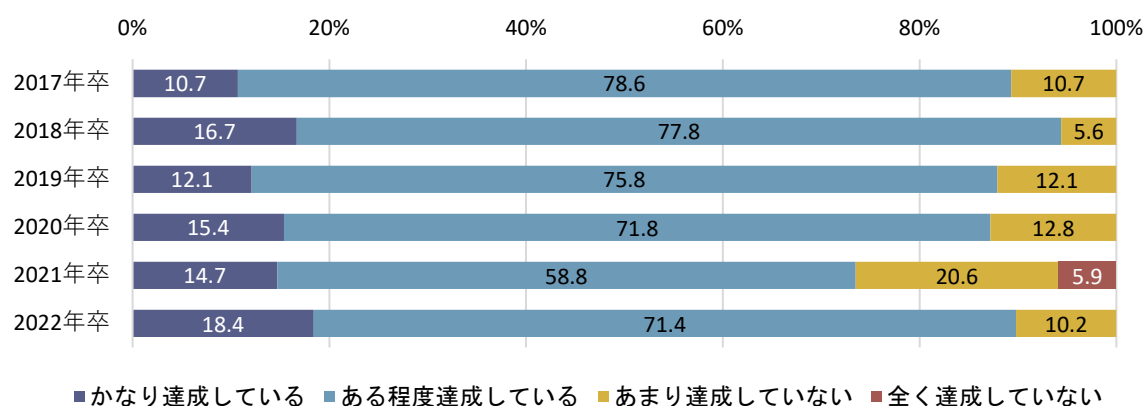


以下、到達目標ごとに、卒業年ごとの結果を示す。

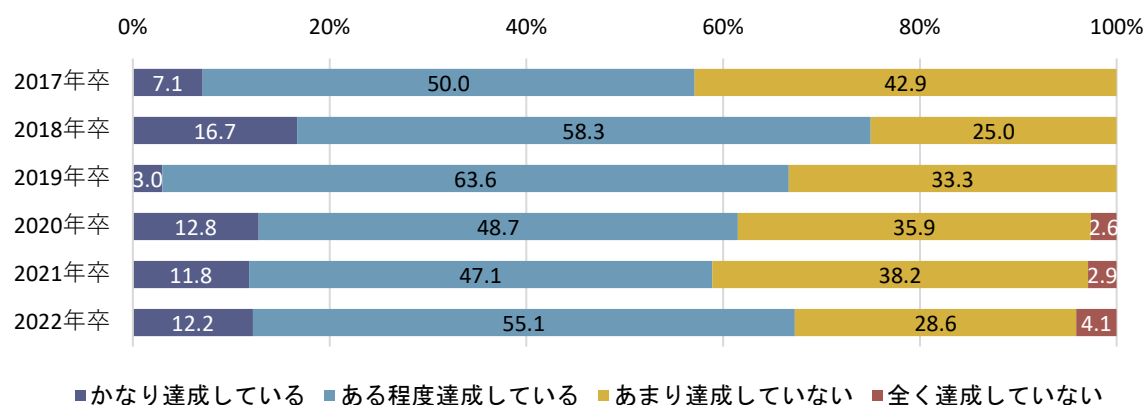
(1) 人間の生命と尊厳を尊重し、高い倫理観に基づいた健全な援助的人間関係を形成できる



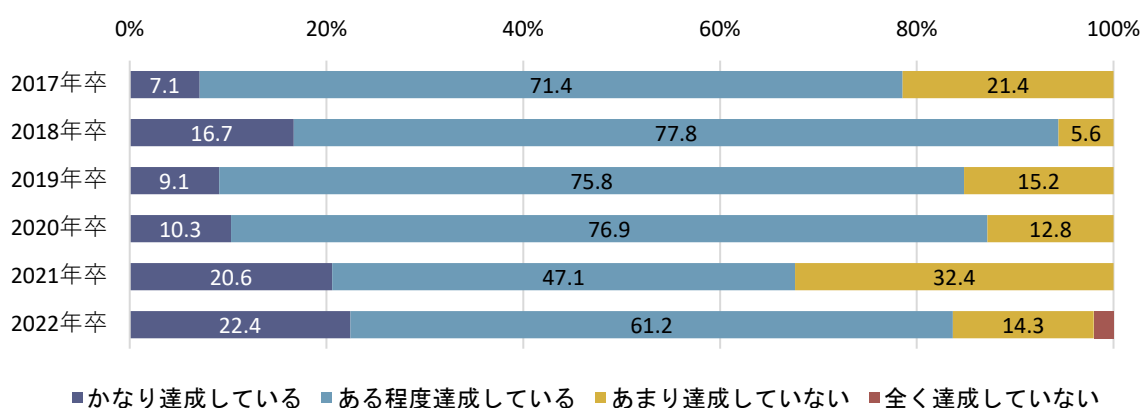
(2) 「自立と自律」に価値を置き、科学的根拠に基づく看護判断と看護実践ができる



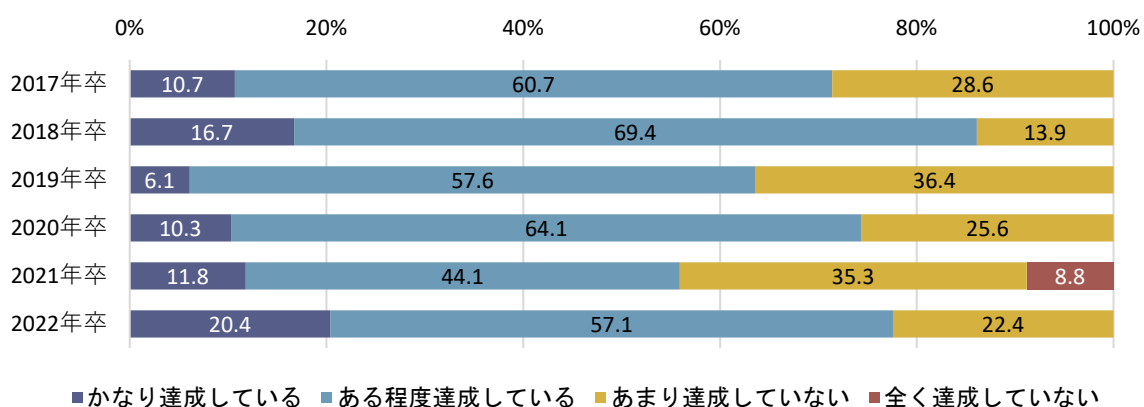
(3) 保健医療、看護、福祉サービスを統合的かつ継続的に提供するために必要なリーダーシップとマネジメントの能力を養う



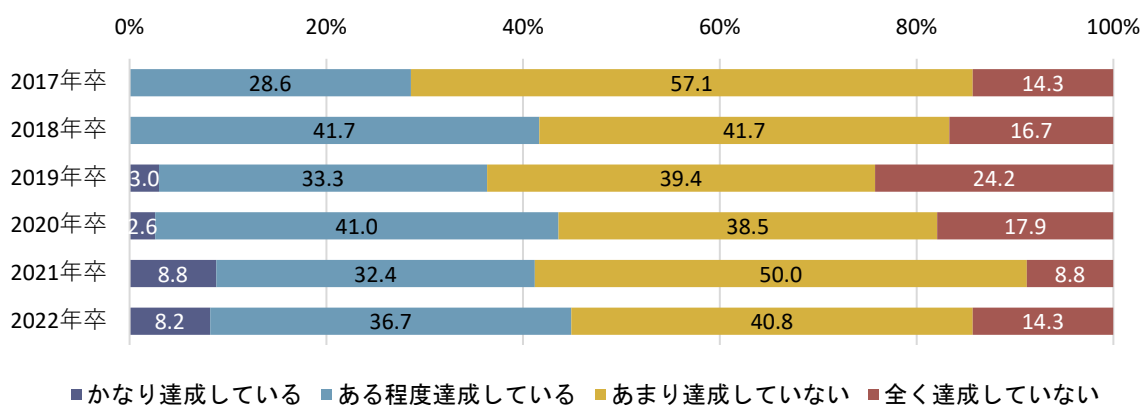
(4) 人々の生命や健康への脅威、生活の破たんに対して、幅広い視点から問題解決のための方策を考え、行動できる



(5) 生涯にわたって看護専門職として自己研鑽する能力と、看護の価値や専門性を発展させる力を養う

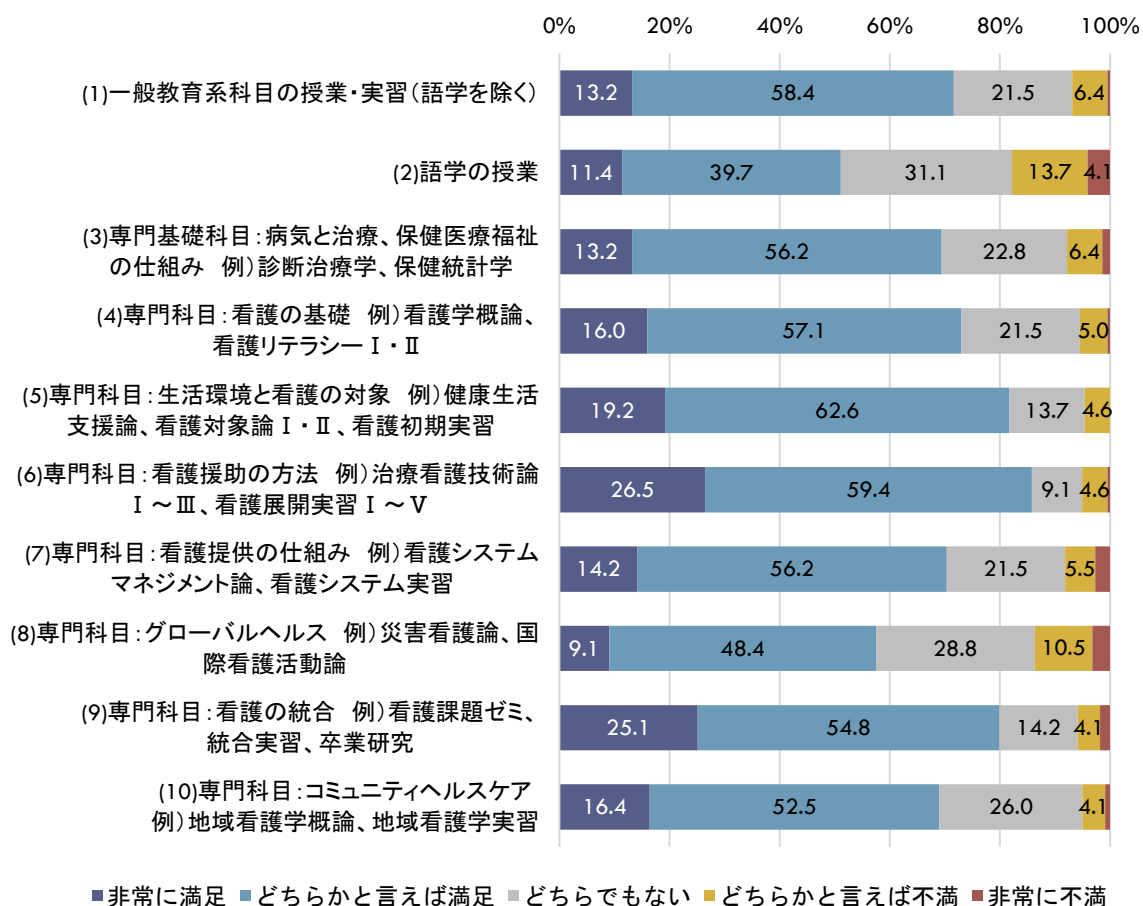


(6) 国際的な視野を持って、世界の人々の安全、健康と福祉に貢献できる能力を養う



Q17. カリキュラムの満足度はいかがでしたか。

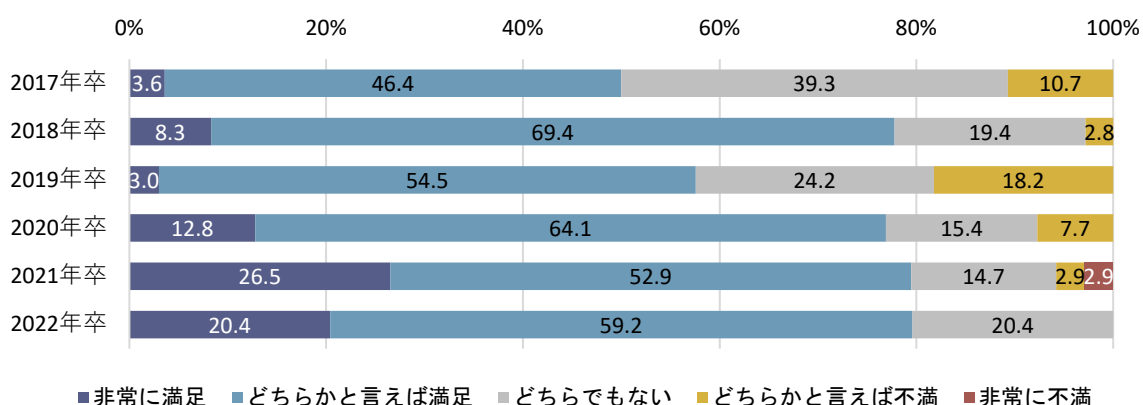
全体としては、「非常に満足」「どちらかと言えば満足」の合計が8割を超えたものは、「(5) 専門科目：生活環境と看護の対象 例) 健康生活支援論、看護対象論Ⅰ・Ⅱ、看護初期実習」、「(6) 専門科目：看護援助の方法 例) 治療看護技術論Ⅰ～Ⅲ看護展開実習Ⅰ～Ⅴ」であった。逆に「どちらかと言えば不満」「非常に不満」の合計が1割を超えたのは、「(2) 語学の授業」と「(8) 専門科目：グローバルヘルス 例) 災害看護論、国際看護活動論」であった。



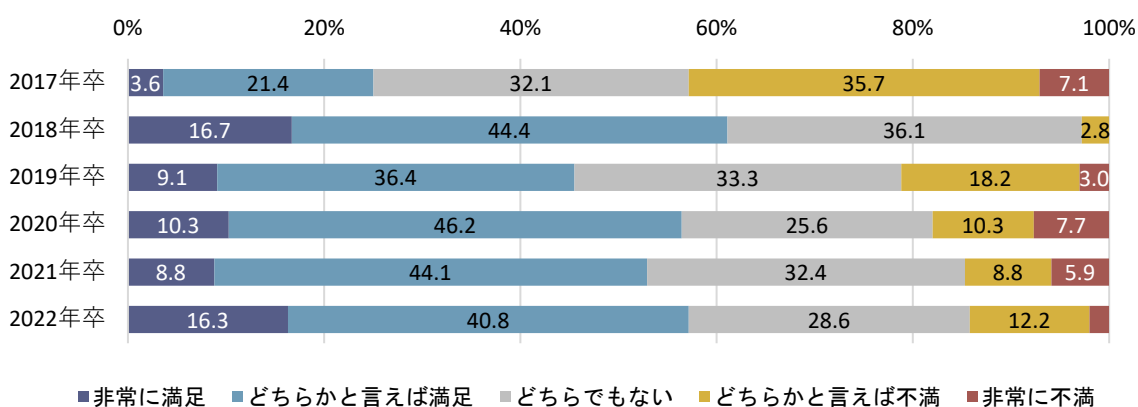
以下、カリキュラムの内容ごとに、卒業年ごとの結果を示す。

「(1) 一般教育系科目の授業・実習（語学を除く）」、「(4) 専門科目：看護の基礎 例) 看護学概論、看護リテラシーⅠ・Ⅱ」、「(5) 専門科目：生活環境と看護の対象 例) 健康生活支援論、看護対象論Ⅰ・Ⅱ、看護初期実習」、「(6) 専門科目：看護援助の方法 例) 治療看護技術論Ⅰ～Ⅲ、看護展開実習Ⅰ～Ⅴ」、「(9) 専門科目：看護の統合 例) 看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究」に関しては、一部例外もあるが、卒業年が最近になるほど、「非常に満足」「どちらかと言えば満足」と回答した者の割合が高くなる傾向が見られた。

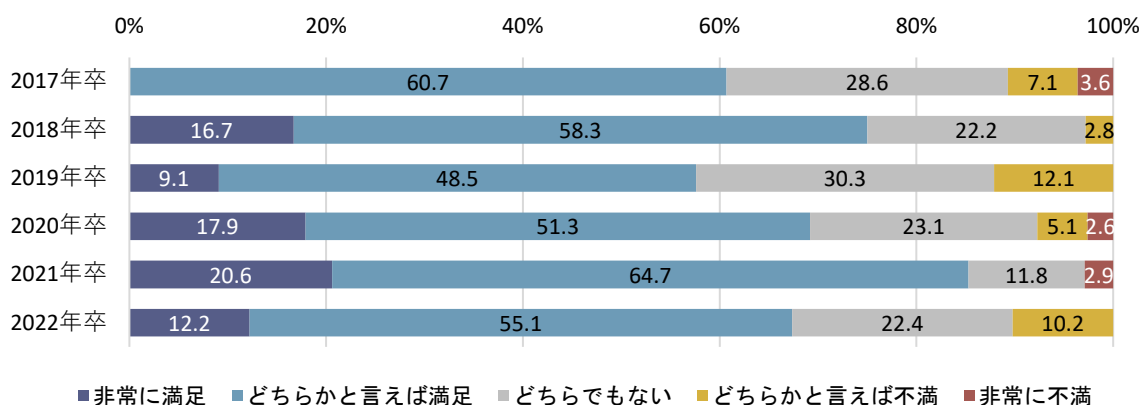
(1) 一般教育系科目の授業・実習（語学を除く）



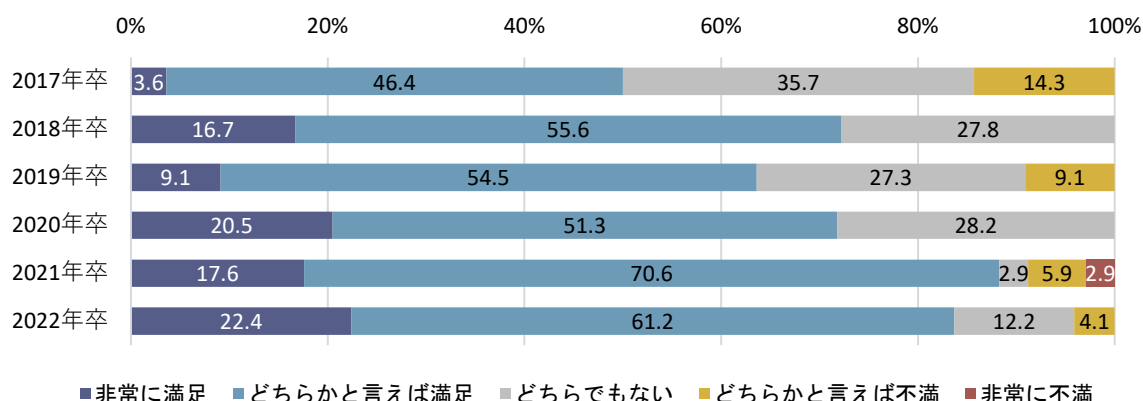
(2) 語学の授業



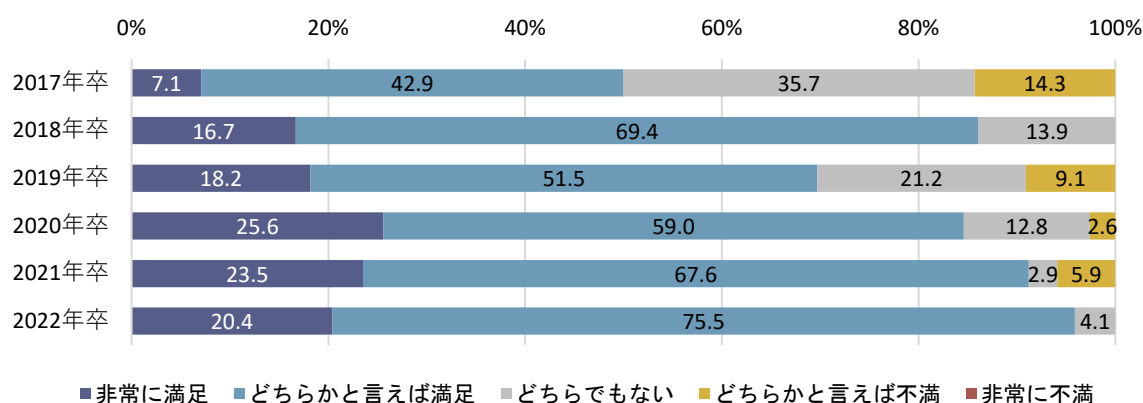
(3) 専門基礎科目：病気と治療、保健医療福祉の仕組み 例) 診断治療学、保健統計学



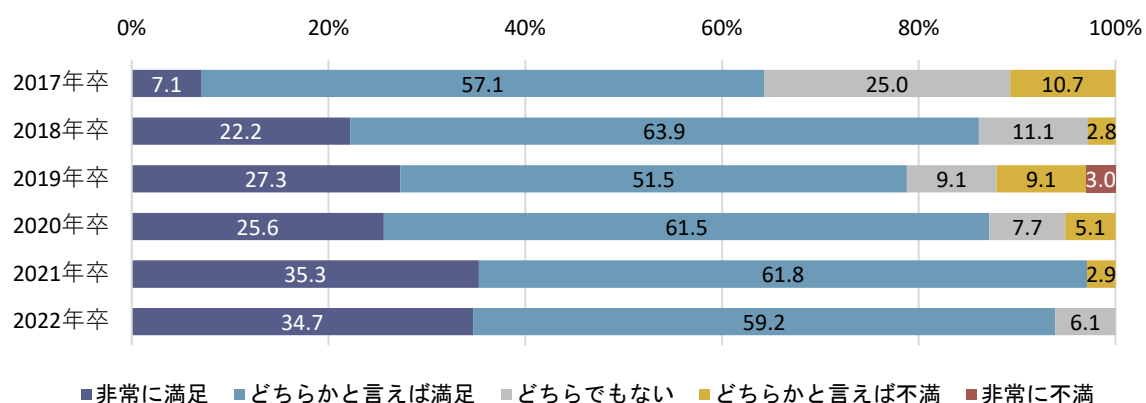
(4) 専門科目：看護の基礎 例) 看護学概論、看護リテラシー I・II



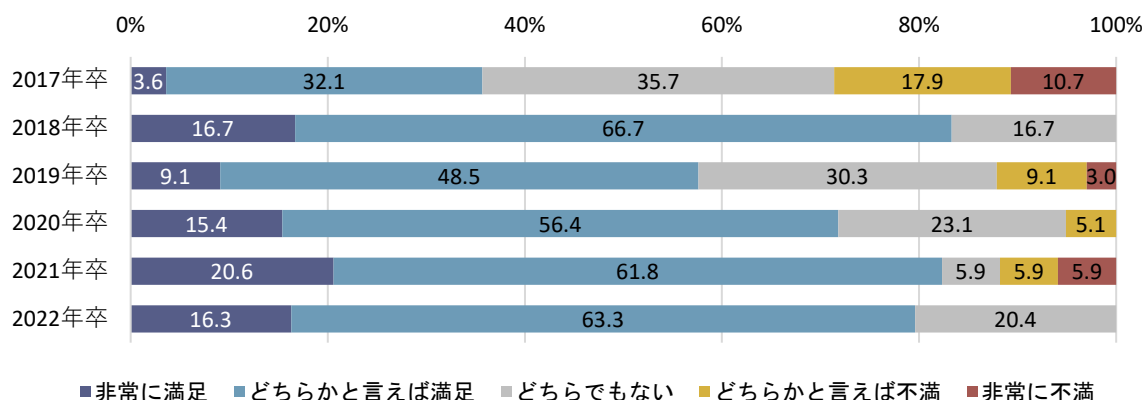
(5) 専門科目：生活環境と看護の対象 例) 健康生活支援論、看護対象論 I・II、看護初期実習



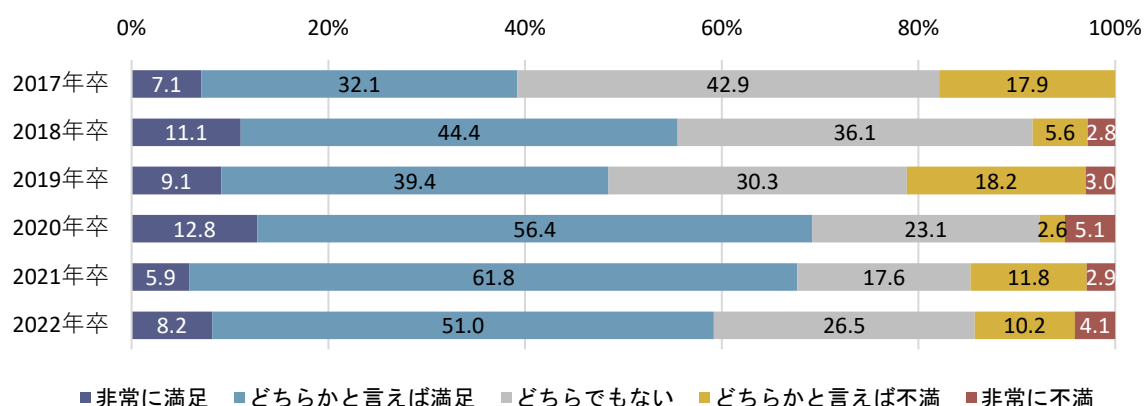
(6) 専門科目：看護援助の方法 例) 治療看護技術論 I～III、看護展開実習 I～V



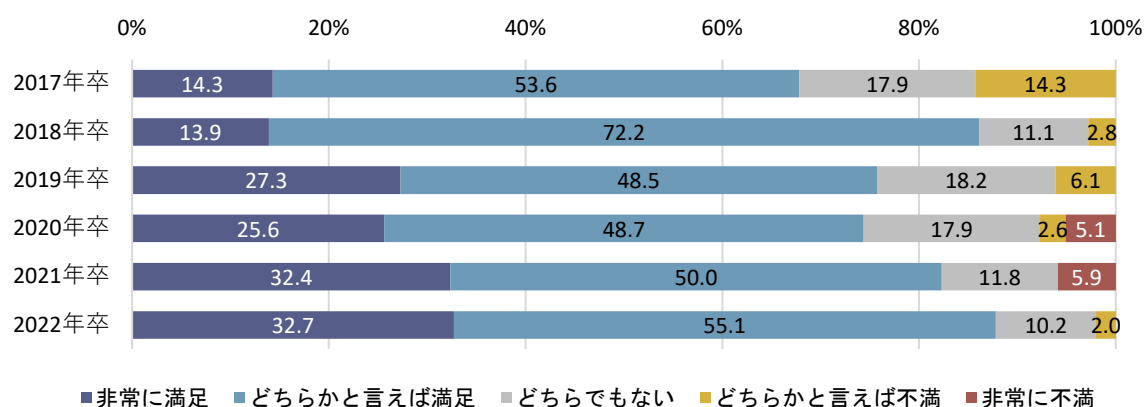
(7) 専門科目：看護提供の仕組み 例) 看護システムマネジメント論、看護システム実習



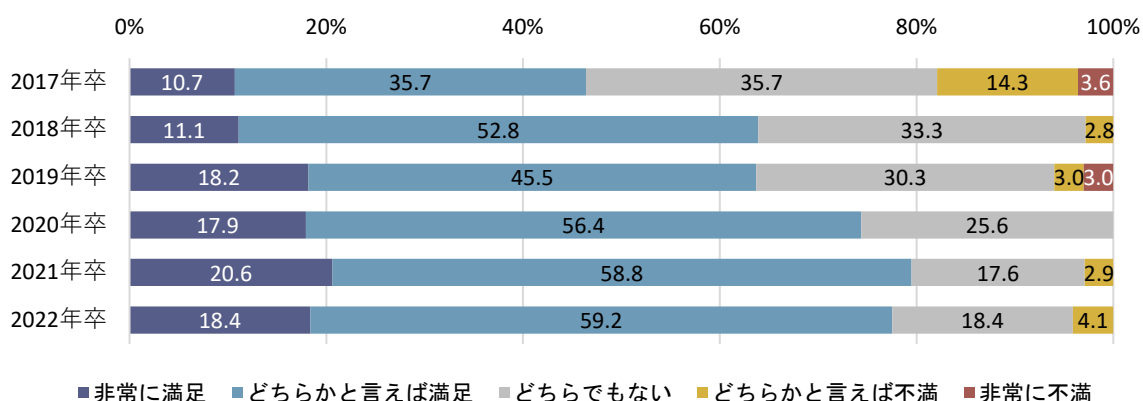
(8) 専門科目：グローバルヘルス 例) 災害看護論、国際看護活動論



(9) 専門科目：看護の統合 例) 看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究



(10) 専門科目：コミュニティヘルスケア 例) 地域看護学概論、地域看護学実習



Q18. そのほか、カリキュラムや科目についてご意見があれば聞かせてください。

●具体的な科目等

<改善点>

- ・ 外国語：実践的な語学の学びをもっと深める必要があると感じた。
- ・ 英語の講義は高校までの学習を復習しているような内容だった。
- ・ 外国語分野の授業が少ない。
- ・ 診断治療学：内容が医師のこだわりすぎて学生には非常に分かりづらかった。
- ・ 保健統計学や PC の操作など：これらの知識や技術をもっと身につけられるとより良かったと思います。
- ・ 保健師、養護教諭のカリキュラム：より充実していたら嬉しかったです。
- ・ 助産師カリキュラム：私たちが在学中に成り立たせると言っていたのに、達成しなかったのが今でも裏切られた気持ちです。
- ・ 科目名は忘れたが、コーチングの授業（毎回の授業で、外部の人間が 10 人くらい呼ばれ、外部の人間一人と生徒 10 人で円を囲み会話する）：時間と授業料が勿体ないので別の科目をやって欲しかった。

<良かった点>

- ・ 一般科目：パソコン操作の知識やコーピングの授業など卒業後役立っている。
- ・ 文化人類学：様々な視点から考えるという機会となり自分の中でとても印象深く学びを得られたと考えています。
- ・ 診断治療学や治療看護技術論：充実していたなと感じました。ベースの知識がある状態で助産学校行けて、在学中のアドバンテージとなりました。

●授業

<改善点>

- ・ 実践の看護ケアと机上の知識をすり合わせていただけるような内容が多いとモチベーションになると思います。

<良かった点>

- ・ 東京医大で学んだことは日々の看護に役立っています。

●実習

<改善点>

- ・ 演習がもっとあればよかった。またせっかく医学科もいるので医師の介助なども演習があれば良いと思った。
- ・ X線画像やCT画像の読影について触れてもらいたい。実習時の物品の配置は初日のオリエンテーションで学生に説明してほしい。
- ・ 病棟看護師は多重課題に直面する事が多いと思ったので、多重課題の解決法などをグループワークで考える授業があると社会人になって看護師になった時に役に立つと思います。
- ・ 企業看護師など外部の実習に行ってみたかった。

●教員

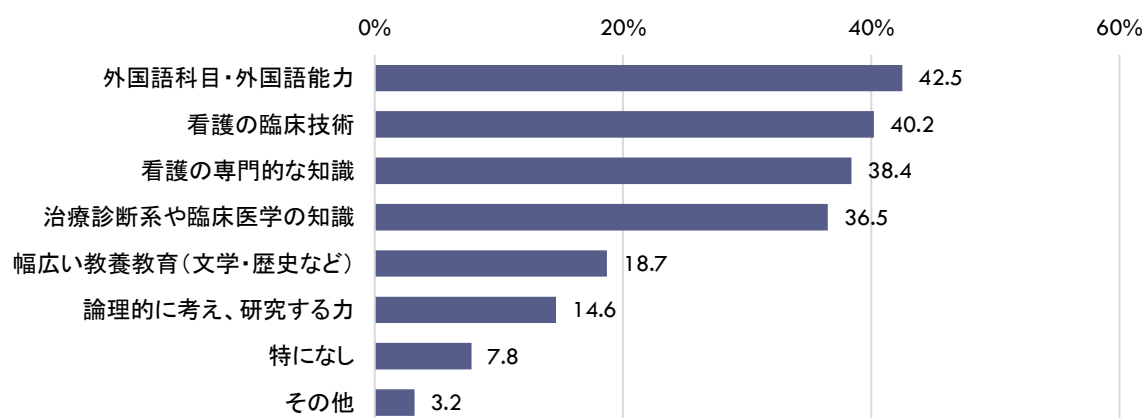
<改善点>

- ・ 先生方の人による評価基準の差が大きかった。指導や指摘ではなく否定をする教員もいた。
- ・ 設立していろんなことがブレていて、先生たちの中でも方針が違って分裂していた。準備不足のカリキュラムに振り回されて散々な大学生活でした。

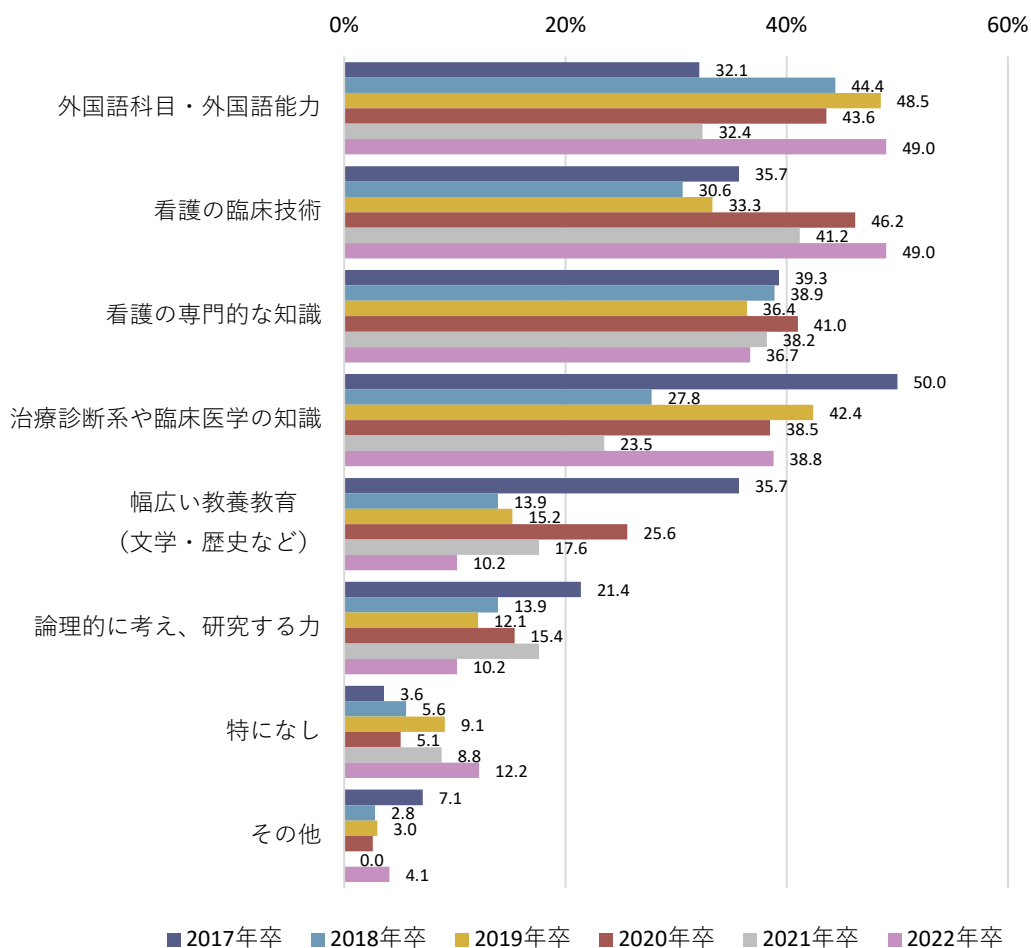
Q19. 在学中にもっと学んでおけば良かった、身につけておけば良かったことはどのようなことですか。(複数選択)

全体としては、割合が最も高いのが「外国語科目・外国語能力」であり、次いで、「看護の臨床技術」であった。

卒業年度別にみると、年度により大きなばらつきがあるが、例えば卒後一年目の2022年卒業生については、「外国語科目・外国語能力」「看護の臨床技術」が同程度で約半数がもっと学んでおけば良かった・身につけておけば良かったと感じている。



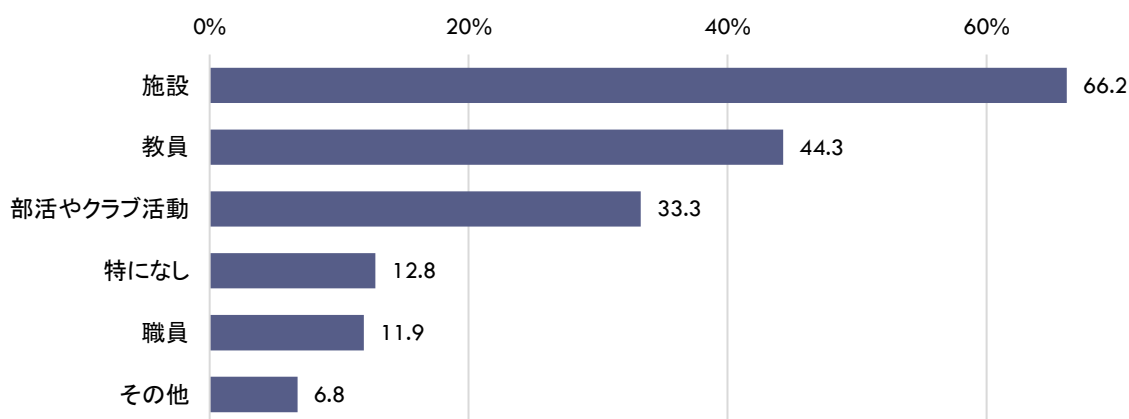
以下、卒業年ごとに示す。



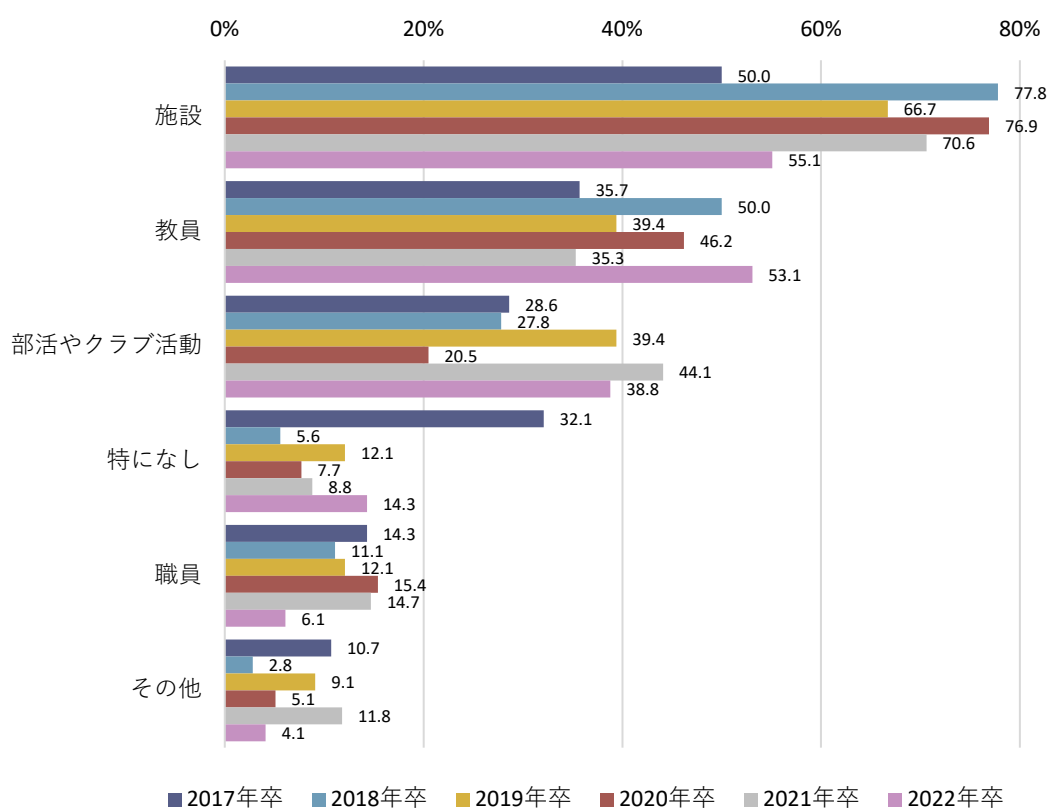
- ・ 「その他」と回答した人の自由記述（具体的に）：社会保障制度、労働における保険・必要度、病院で使用する機器の使い方（輸液ポンプなど）、実践に合わせたカルテの書き方（医療用語や体の部位等慣れるのに時間がかかる）、薬剤量の計算（指示量が適切か確認する方法）、点滴の作り方（1A ではない場合の計算）、多重課題の対応（優先順位の考え方）、看護師としてのライフプランの幅、お金に対する知識、根拠に基づいた思考過程の経験、患者会に参加し患者の思いなどを学ぶ機会をつくれればよかった

Q20. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、良かったと思う点について教えてください。（複数選択）

全体としては、良かったと思う者の割合が高い順に、「施設」、「教員」、「部活やクラブ活動」であった。卒業年別でみると、第1看護学科棟ができた2018年卒業生以降、「施設」を良かったと評価した者が65%を超えていたが、2022年卒で55.1%に低下した。



以下、卒業年ごとに示す。



「施設」について良かったと思う点（具体的に）

●学習環境全般

- ・ 綺麗・清潔感がある。(28)
- ・ 新校舎が綺麗。(13)
- ・ 必要な設備が整っていた。(7)

●シミュレーターや演習室

- ・ シミュレーターが充実していた・役立った。(15)
- ・ 実技研修の環境が整っていた。(3)
- ・ 実習室がきれいで、広くて使いやすい。

●PC や周辺機器

- ・ 自習や課題をする時にパソコンを使用できた。数が足りず困ることもなかった。(2)

●キャンパスのサイズや立地

- ・ 立地が良かった。(12)
- ・ 敷地が広くないため移動しやすい。
- ・ 医学科と同じキャンパス。

●附属病院

- ・ 附属病院が近くて実習後に大学に戻りやすかった。
- ・ 附属病院があるので実習先が固定されていてよかった。

●自習室や図書館

- ・ メディアルームや自習室を自由に使用できた。(5)
- ・ 実習後に自習室で記録を書いて帰れたことは便利と感じた。
- ・ 国家試験の前に会議室や教室を使わせていただきました。
- ・ 図書館。

●その他

- ・ 長い時間過ごすので水回りがきれいなのがありがたかった。
- ・ 八王子医療センターに寮がある。

「教員」について良かったと思う点（具体的に）

●親切・親身になってくれた

- ・ 親身になってくれた。(12)
- ・ 相談しやすい・話しやすい。(10)
- ・ 進路や就職について親身に相談にのってくれた。(7)
- ・ 親切・優しい。(6)
- ・ 学生のために頑張ってくれていた。
- ・ 授業や実習でお世話になった。

●授業の分かりやすさ・専門性

- ・ 各分野の看護に精通した教育が受けられ勉強になった。
- ・ 看護師のお手本のような先生方でした。
- ・ 経験豊かな教員が多数居た。
- ・ 教え方が上手な方が多かったと思いました。先生方のお話も面白くて学びになりましたし、とてもお世話になりました。
- ・ 先生方の臨床の体験談も実臨床で生かしています。
- ・ 講義で国試対策にもつながるような視点を学べ、12月から国試対策した生徒が多かったが、全員合格できた。
- ・ 各分野の看護に精通した教育が受けられ、勉強になった。特に、さまざまな進路を知れたり、看護過程について手厚いフィードバックをもらえたことが今とても役に立っている。
- ・ 研究室で看護研究の方法を学ぶことができた。

●授業の進め方

- ・ 丁寧に指導していただいた。(2)
- ・ 自分がめざしていることに対して導いてくれる教員と出会えた。
- ・ ゼミでの主体性を重視し最大限に能力を伸ばしていただいた。
- ・ 自分で考えられるように指導していただきました。
- ・ ゼミや卒論について、自分の研究したいテーマに対してとても寄り添ってご指導いただいた点。
- ・ どの教員も一人ひとりの考えを尊重しようとしてくれた、4年間で看護観を十分に考えることができる授業だった。
- ・ 分からないことをお聞きしても必ず後日連絡をくださり、不安が少ない状態で学生生活をおくることができました。
- ・ 先生方には実習時に幅広い学生のフォローをしていただいた。特にメンタルケアが有り難くとても感謝している。

●卒業後のつながり

- ・ 本院に就職したが、実習のたびに声をかけてくれたりフォローしてくれている。
- ・ 卒業後も院内で会うと話しかけてくれる。
- ・ ゼミはもちろんのこと卒業後のケア検討会などのお知らせがあり繋がりがあがる。

「職員」について良かったと思う点（具体的に）

- ・ 優しい。(2)
- ・ 親身になってくれた。(2)
- ・ 丁寧に対応してくれた。(2)
- ・ 話しやすい。
- ・ 疑問を一緒に解決してくれた。
- ・ ワクチン接種のアナウンスや取りまとめ、書類の受け渡しなどとてもしっかりしていた。

- ・ 卒業後も卒業証明書や成績証明書の発行を依頼しましたが、迅速に対応してくれた。

「部活やクラブ活動」について良かったと思う点（具体的に）

●人との交流

- ・ 医学科と交流ができた。(16)
- ・ 先輩・後輩と交流ができた。(6)
- ・ 卒業後もつながりがある。(5)
- ・ 他大学・専門学校との交流ができた。(4)
- ・ 交友関係が広がった。(4)
- ・ メンバーに恵まれた。

●充実した学生生活

- ・ 楽しかった・充実した大学生活をおくれた。(7)
- ・ 学生時代の良い思い出になった。(4)

(その他のコメント)

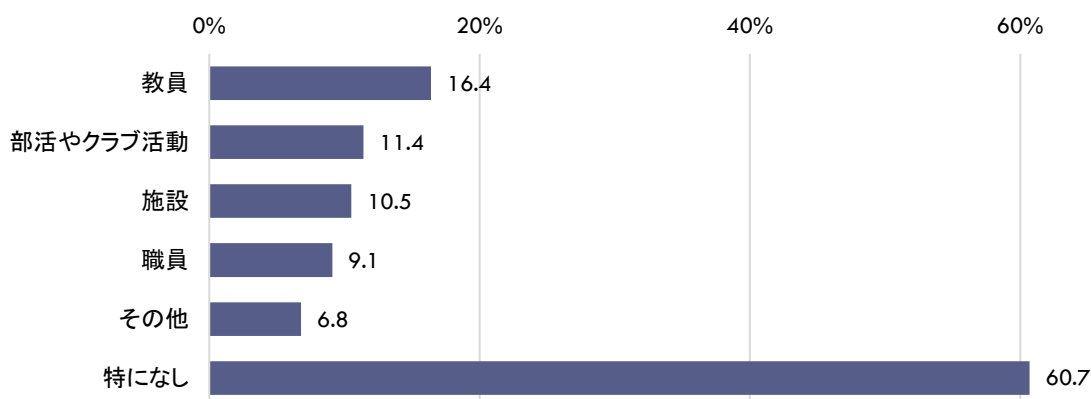
- ・ 活動する場所があり、色々なことを経験できた。
- ・ 気分転換になるところ。
- ・ 試験期間への配慮がしっかりされていた。
- ・ 部活動内で子供と関わったことで小児に進みたいという気持ちが湧き、今の仕事へと繋がったと考えています。
- ・ 上下関係等学ぶことができました。
- ・ 大会運営の幹部の経験も大きな財産となったと考えている。

「その他」、看護学科を振り返ってよかったと思う点（具体的に）

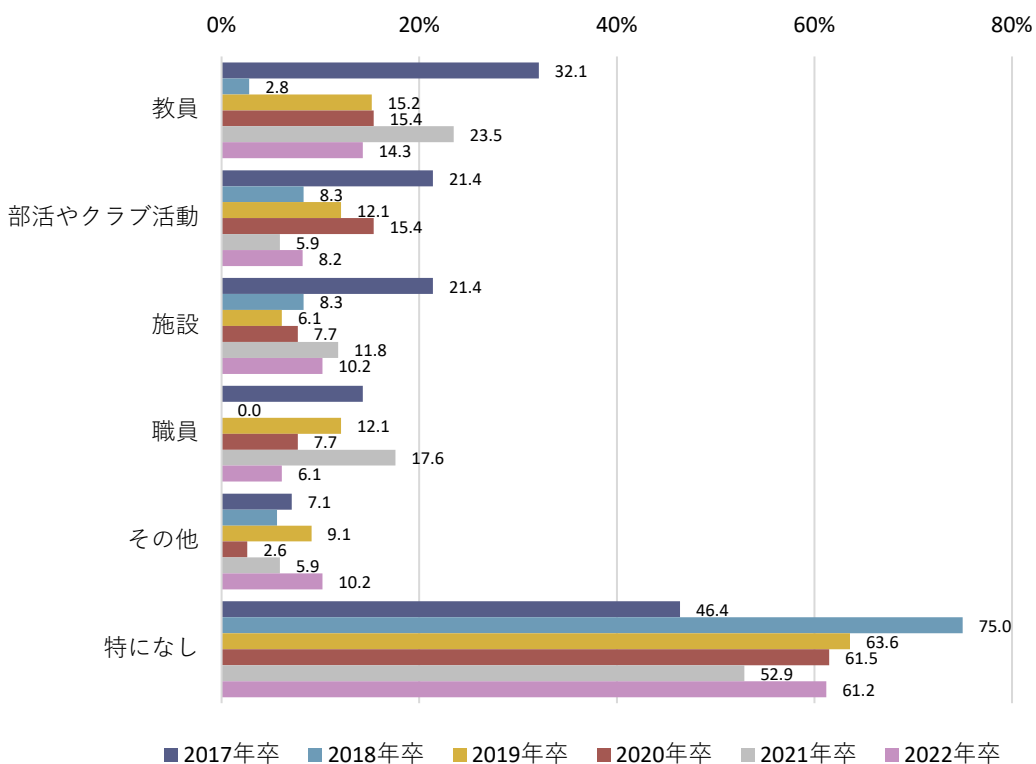
- ・ 友人・同期に恵まれた。(6)
- ・ キャンパスの立地が良かった (3)
- ・ 国家試験対策が充実していた。
- ・ 授業や実習で専門的なことが学べてよかった (例: 解剖実習, 災害医療のエマルゴ等)。
- ・ 一期生として良いも悪いも経験させてもらえたこと。教養の授業が充実していた。魅力的な先生が外部は多かった。医学科の授業で楽しい授業も多かった。
- ・ 教養の授業が充実していた。

Q21. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、改善すべきと思う点について教えてください。（複数選択）

全体としては、改善すべきと思う者の割合が高い順に「教員」、「部活動やクラブ活動」、「施設」、「職員」という結果だったが、改善すべき点は「特になし」と回答した人も全体の6割を超えた。卒業年別でみると、2017年卒業生（1期生）に関しては、各項目において改善すべきと回答している割合が高かった。



以下、卒業年度ごとに示す。



「施設」についての改善点（具体的に）

●施設環境

- ・ 自習室が狭い・少ない。(6)
- ・ 学食が不便・価格が高い。(3)
- ・ 校舎・教室が狭い。(2)
- ・ 駅からかなり遠い。
- ・ 図書室の閉館時間が早かった。
- ・ 学務課が閉まるのが早く不便だった。

●設備や機器類

- ・ ロッカーが遠い。(3) 学習意欲に支障がでる。できれば第二看護棟に設置して欲しかった。
- ・ 学生の使用方法が悪いから理由をつけ、施設の清潔や掃除が満足にされていなかった。空調にムラがあるのにも関わらず、お金がかかるからと理由をつけ、改善や対策を何もしてくれなかった。設立する際学生が学習に集中できる環境を提供するという、学校側が配慮すべき点であるため、もう少し学生目線で考えるべきであった。とにかく施設内が不潔、不要なものも多い。静かな自習ができる部屋や実習室の開放など自主的に学べる環境を整えて欲しい。
- ・ PC室のコピー機がいつも壊れていた。

「教員」についての改善点（具体的に）

●全般的な改善点

- ・ 教員内でも方針や考え方が分裂していた。(4)
- ・ 一部の先生から差別的扱いを受けた。(3)
- ・ 先生方の人による評価基準の差が大きかった。(2)
- ・ 教員によって内容や課題の差が激しい。
- ・ ムラがある。
- ・ 看護の楽しさを教えてくれる先生、向き合ってくれる先生が増えると嬉しいです。
- ・ わからないことに対して質問すると、まず自分で考えてみてと言われることが多く、考えた結果を伝えても、曖昧な返答で答えを教えてもらえなかったことが多かった。答えがないこともあるが、それなら先生の意見を聞きたかった。
- ・ 学生に向き合う態度が教育者として望ましい姿勢ではなかったとも思える先生が数名いらっしゃいました。
- ・ 色々な体制が整っていなかったと思う。

●実習

- ・ 実習中相談しにくい教員がいた。
- ・ 緊張している学生が安心して実習できるような雰囲気作りに努めてほしい。

- ・ 実習で非常勤の先生だと実習の目的やルールがあまりわかっていच्छゃらないようで、そこにも神経を使わないといけないのが大変でした。

●その他

- ・ 教員からのハラスメントを学校に訴えたが、学校側は動いてくれなかった。
- ・ 教員と学務課の連携がとれていない。
- ・ 臨床医療の最新の看護知識。
- ・ 良い先生の離職率が高い。
- ・ 小児看護の教諭達。生徒にわかるレベルで教諭間での格差や一部の教諭に対する不当な扱いを感じ、授業中不快なこともあった。生徒には良くしてくれてると思う。(在学当時)
- ・ 保健統計を改善してもらいたい

「職員」についての改善点 (具体的に)

- ・ 無愛想で不親切。(3)
- ・ 事務の対応が遅かった。(2) 各種証明書の自動発行機など導入するべき。
- ・ 教員と学務課の連携がとれていない。
- ・ 明らかに仲悪いことが見えていた。

「部活」についての改善点 (具体的に)

●活動における制限

- ・ 部活やクラブの選択肢が少ない。(2)
- ・ 看護学科がプレーヤーとしてできる部活が少ない。(2)
- ・ 医学科メインなのがつまらなかった。(2)
- ・ 看護学科が入部できる部活を増やした方がいい。
- ・ 看護学科独自の部活やクラブ活動があるとよかった。
- ・ 看護の視野を広げるような部活ができたらいいなと思います。
- ・ 新しいサークルを立てるのが難しく、既存のものに入るか入らないかの2択だった。

●金銭面

- ・ 部費が高すぎる。(2) 医学部と同等には払えない。

「その他」看護学科を振り返って、改善すべきと思う点 (具体的に)

●設備や機器類

- ・ クリッカー？とかiPadをちゃんと活用すべき。
- ・ コピー用紙の使用を禁止したこと、文房具の貸出を禁止にしたこと。
- ・ 施設などはすごくいいが、使いきれていない点がある。

- ・ iPadの中に教科書があったが、これまでテキストで学んできた私にとっては扱いづらかった。基本的に使用せず、医学書院の教科書を結局使用していた。
- ・ 看護の自習室に医学科の学生がおり、さらにその学生たちが騒がしく試験前などはとても迷惑だった。
- ・ シミュレーション設備が整っているのもっとシミュレーション学習できる機会が増えたら良い。

●授業やカリキュラム

- ・ 一般教養や語学教育についてもっと学習したかった。
- ・ 統計的な試験問題について教員が持っているデータが古く現状の正答を選んでも不正解になることがあった。病理学知識などは医学科に偏っているが、もう少し試験内容を看護にもいきる内容になると勉強する意味が深まるように感じる。
- ・ 助産師カリキュラムの設置。
- ・ 就職してからの臨床技術をもっと大学でも学びたかった。
- ・ 当時大学新設してからそんなに歴史がないため、カリキュラムの選択肢も少なく、必須科目ばかりでつまらなかった。専門学校ではなく大学なのであれば、医学部と合同で受けられるオープン科目や一般教養などの幅広い科目があってもよかったと思う。
- ・ 勉強の仕方などをもっと具体的に教えて欲しかったと思います。主体性を大切にする建学の精神のようですが、放任主義のようにも思え、もっと手厚くサポートしてもらえたらと思いました。
- ・ 時間割が見にくかった、時間割が突然変わることが多く予定が立てづらかった。

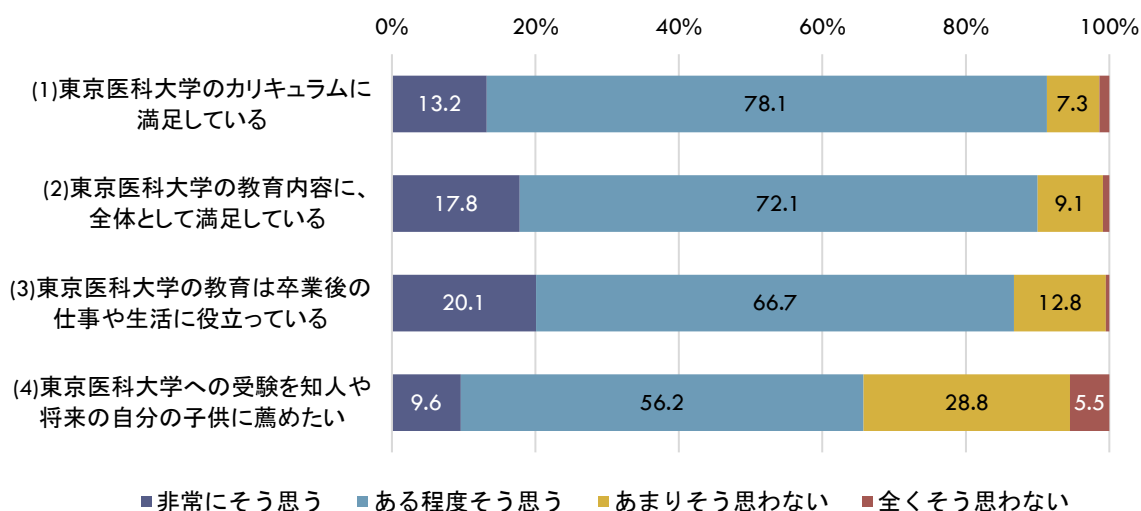
●学費

- ・ 学費が高い。

Q22. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、総合的にどのように感じていますか。

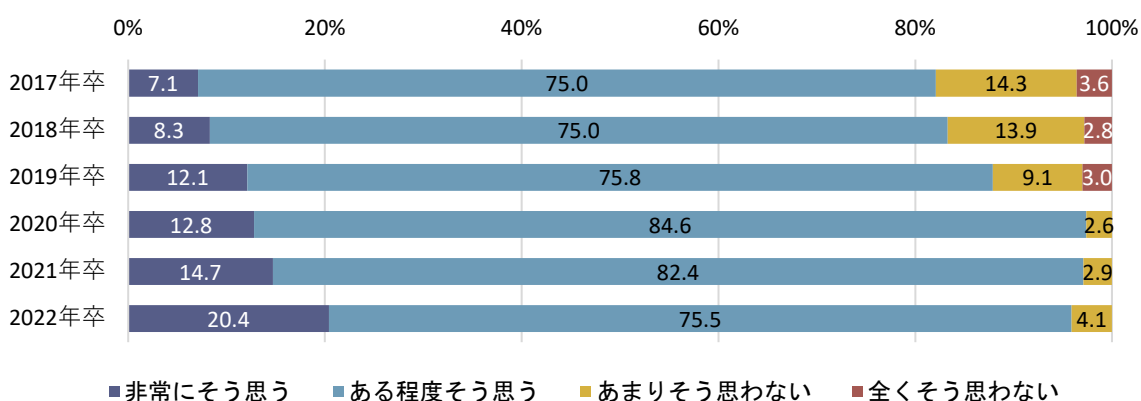
全体としては、「(1) 東京医科大学のカリキュラムに満足している」、「(2) 東京医科大学の教育内容に、全体として満足している」、「(3) 東京医科大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」について、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合計した割合が85%を超えた。一方で、「(4) 東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい」については、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合計した割合が、65.8%にとどまった。

卒業年別にみると、「(1) 東京医科大学のカリキュラムに満足している」、「(2) 東京医科大学の教育内容に、全体として満足している」、「(4) 東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい」の項目について、卒業年が最近になるほど「非常にそう思う」と回答した者の割合が増加している。

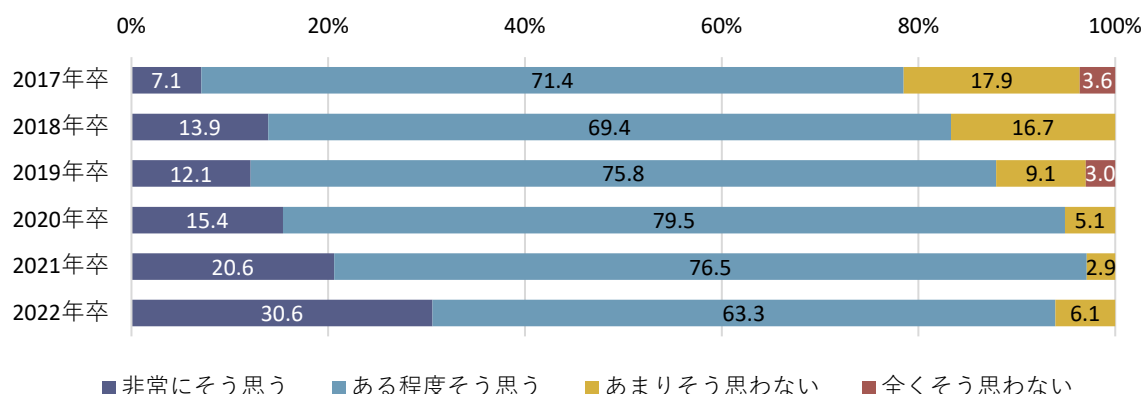


以下、項目ごと、卒業年ごとに示す。

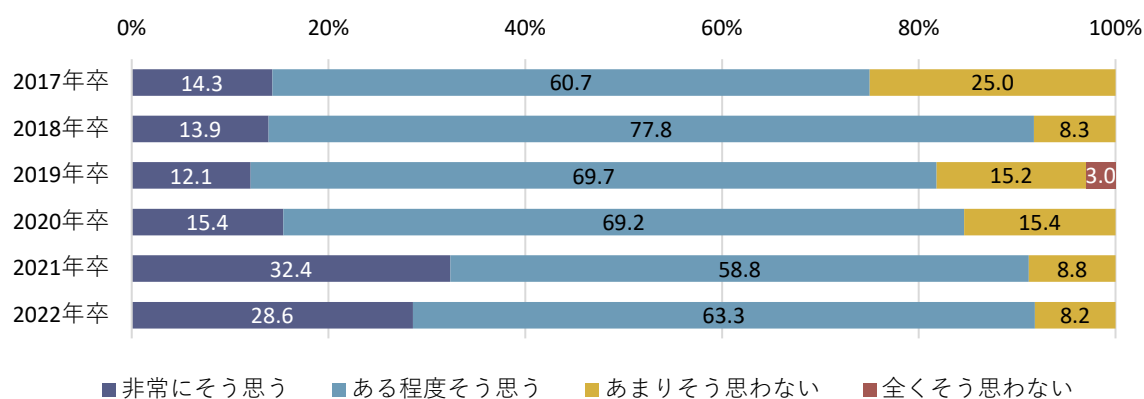
(1)東京医科大学のカリキュラムに満足している



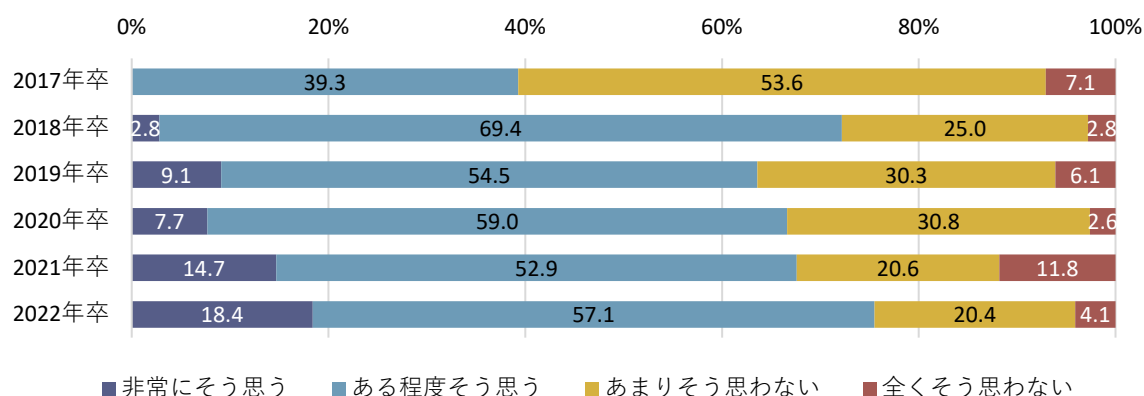
(2)東京医科大学の教育内容に、全体として満足している



(3)東京医科大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



(4)東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい



Q23. 東京医科大学の教育をより良くするためのご意見、または、東京医科大学へのご要望等を、自由にご記載ください。

●良かった点

- ・ トリアージ訓練やシュミレーション学習は印象的で卒業後も覚えています。
- ・ 社会人になり看護師として働き始めてから、東京医科大学の教育はレベルの高いものだったと実感します。特に実習で学んだことや感じたことは現在の仕事の中でも活かされることが多いです。看護実習は1人の患者さんにじっくり関わることができ、看護展開というものが何なのかを学ぶ良い機会だと思い、学生のうちに経験できる大切な経験であると考えています。そのため、実習でどんな経験ができたかが卒業後の看護観や看護技術を習得していく上で大きく影響するよう感じます。学生時代、初めての实習では記録の書き方や流れ、どんなことをするのか右も左も全くわからずに戸惑った覚えがあります。学生が実習の意義やイメージをより理解し想像しながら実習に臨めるような機会があるとより良いものになると思っています。
- ・ 東医出身ということで医師など他職種と話が盛り上がり仕事を円滑に進めることに繋がる場面がありました。東医で学んだこと、東医でのご縁を大切にこれからも看護師としてがんばります。
- ・ 助産師学校受験の際には先生に大変お世話になりました。ありがとうございました。

●カリキュラムや科目、授業体制について

- ・ 国際的な視点を養う授業だけでなく、実践的な語学を身につけられる授業があれば良いと思った。
- ・ せっかく、いろんな大学から教員を寄せ集めているので、他の大学のシステムや設備など良いところを積極的に導入しつつ、ブレずに芯を持って統一したカリキュラムを提供してください。
- ・ 私は全体的に満足していますが、専攻科で研究をやった時に差を感じた統計学について、もっと充実できたらなと感じました。量的データの分析法など少し知識があるといいかと思いました。
- ・ 実習やゼミなどの内容や課題の判断基準を多少揃えること。
- ・ 授業と試験の内容が異なっている科目があったため、試験に結び付く勉強をしたかったことがあった。
- ・ 専門学校との差別化をし、ある分野により専門的に学習することが選択できるようにカリキュラムを増やすべき。
- ・ 看護学生から卒業して看護師となり、様々なギャップを受けました。看護学生の時に卒業生(実際の看護師)から聞ける話は、ライフプランを考える上でも、モチベーションを高める上でもとても重要だと思います。私も、学生時代にもっと看護師から具体的な話を聞きたかったと思うタイミングが多かったです。今通っている学生さん方が素敵な医療従事者となるよう祈っております。
- ・ 看護や医学だけでなく、もっと広い視野で物事を見る必要があることを在学中から知ることができる、より社会に貢献できる人材になれるのではないかと思う。

●実習

- ・ 実習での西新宿の看護師が怖かったので、実習環境を良くして欲しい（今、自分が実習生に対して意識している）。
 - ・ 実習先が、みんな平等の遠さになるように振り分けられていた?気がしました。
 - ・ 東京医科大学附属の看護専門学校の卒業生からの大学なのになんでわからないの?等と実習で言われるのがすごく嫌だったため就職しなかった。そのようなところがもったいないと思った。
- キャリア支援
- ・ 学校勤務への道を考えている人もいると思うので、例えば教員採用試験の対策などもあるといいのでは、と思う。
- 学費
- ・ 成績優良な学生は、学費減額などの制度を整えてほしい。どうしても、家庭の支援が整っている子の方が勉強に時間を割ける。バイトをしなければならない学生との知識量が広がってしまうので。
- 教員
- ・ 学校を良くするためには先生たちが楽しそうに勤めていること、授業をしていることが大きく影響するとおもいます。
- その他
- ・ もう少し手厚く勉強や進路のことなどサポートしていただけると良いと思います。
 - ・ 連絡が遅い、不明確な状態のメールは良くないと思った。

4. まとめ

本アンケートは、2022年3月までに卒業した全卒業生を対象としている。卒業生からのフィードバックは教育の改善に重要である。回答では、多くの忌憚のないご意見とともに叱咤激励のコメントもいただいた。調査をまとめるに当たり、回答してくださった卒業生のご意思を反映させられるよう努めたい。

① 回答数

送付数 493 のうち 219 の回答が得られた。回収率 48.3%であり、卒業年別ではいずれの卒業年も 40%を超えていた。卒業 1 年目は半数以上が回答しているものの、卒業生の実態を把握するには、今後さらに回収率を高める方策を検討する必要がある。

② 卒業後のキャリア

卒業直後は、全体として 9 割が就職しており、進学する者も 10%弱いた。一学年における東京医科大学病院（西新宿）への就職割合は、3 割台～8 割台まで、卒業年によりばらつきがある。卒業直後に就職した者について全体では 69.4%が同じ勤務先にいたが、6 年前に就職した 2017 年卒は、同じ所に就職しているのが 4 割弱であった。また、卒業直後に進学した者の多くは、その後助産師として勤務していた。

③ 教育の評価

6 個の卒業時教育到達目標に関して、全体としては、「(1) 人間の生命と尊厳を尊重し、高い倫理観に基づいた健全な援助的人間関係を形成できる」、「(2) 『自立と自律』に価値を置き、科学的根拠に基づく看護判断と看護実践ができる」の達成度が高く、逆に「(6) 国際的な視野を持って、世界の人々の安全、健康と福祉に貢献できる能力を養う」が最も達成度が低かった。

カリキュラムの満足度に関しては、「(5) 専門科目：生活環境と看護の対象 例) 健康生活支援論、看護対象論 I・II、看護初期実習」、「(6) 専門科目：看護援助の方法 例) 治療看護技術論 I～III看護展開実習 I～V」に関して、全体での満足度（「非常に満足」「どちらかと言えば満足」の合計）が 8 割を越えた。逆に、「どちらかと言えば不満」「非常に不満」の合計が 1 割を超えたのは、「(2) 語学の授業」と「(8) 専門科目：グローバルヘルス 例) 災害看護論、国際看護活動論」であった。

「在学中にもっと学んでおけば良かったこと」は、もっとも回答者の割合が高かったものは「外国語科目・外国語能力」であり、次が「看護の臨床技術」であった。

④ 母校の良かった点、改善すべき点、総合的評価

母校の良かった点に関しては、回答が多かった順に「施設」、「教員」、「部活やクラブ活動」であった。

改善すべき点に関しては、回答が多かった順に、「教員」、「部活動やクラブ活動」、「施設」、「職

員」だったが、改善すべき点は「特になし」と回答した人も全体の6割を超えた。

東京医科大学への総合的評価については、「(1)東京医科大学のカリキュラムに満足している」、「(2)東京医科大学の教育内容に、全体として満足している」、「(3)東京医科大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」について、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合計した割合が85%を超えた。一方で、「(4)東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい」については、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合計した割合が、65.8%にとどまった。

<資料>

1. 卒業生アンケート質問票

1. 卒業生アンケート質問票

Q1. あなたの卒業年を教えてください。

1. 2016年度(2017年3月卒業)
2. 2017年度(2018年3月卒業)
3. 2018年度(2019年3月卒業)
4. 2019年度(2020年3月卒業)
5. 2020年度(2021年3月卒業)
6. 2021年度(2022年3月卒業)

Q2. 性別を教えてください。

1. 男性
2. 女性
3. 回答なし

Q3. 卒業直後の進路を教えてください。

1. 就職した
2. 進学した(具体的な進学先名:)
3. それ以外(具体的に:)

分岐 : Q3 = 1 と回答した人は Q4 へ、 Q3 = 2 もしくは 3 と回答した人は Q9 へ

<卒業直後に就職した方に伺います>

Q4. 卒業直後の就職先はどちらですか。

1. 東京医科大学病院(西新宿)
2. 茨城医療センター
3. 八王子医療センター
4. それ以外(具体的な勤務先名:)

Q5. 卒業直後の業務上の職種を教えてください。

1. 看護師
2. 保健師
3. 養護教諭
4. その他(具体的に:)

Q6. 卒業直後の雇用形態を教えてください。

1. 常勤
2. 非常勤
3. その他(具体的に)

Q7. 現在も同じ所に勤務していますか。

1. している
2. していない

分岐 : Q7 = 1 と回答した人は Q13 へ、 Q7 = 2 と回答した人は Q8 へ

Q8-1. 卒業直後の勤務先の勤続年数を教えてください。

1. 1年未満
2. 1年以上～3年未満
3. 3年以上～5年未満
4. 5年以上

Q8-2. 退職理由を教えてください。()

<現在の状況について伺います>

Q9. 現在の状況を教えてください。

1. 勤務をしている(具体的な勤務先名:)
2. 進学している(具体的な進学先名:)
3. その他(具体的に:)

分岐 : Q9 = 1 と回答した人は Q10 へ、 Q9 = 2 もしくは 3 と回答した人は Q13 へ

Q10. 現在の業務上の職種を教えてください。

1. 看護師
2. 保健師
3. 助産師
4. 養護教諭
5. その他(具体的に)

Q11. 現在の雇用形態を教えてください。

1. 常勤
2. 非常勤
3. その他(具体的に)

Q12. 現在の所属先の勤続年数を教えてください。

1. 1年未満
2. 1年以上～3年未満
3. 3年以上～5年未満
4. 5年以上

<ここから全ての方に伺います>

Q13. 卒業して社会に出たことで、“医療職として社会に貢献するという意識”は変化しましたか。

5. 大いに变化した
4. ある程度变化した
3. どちらでもない
2. あまり变化しなかった
1. 全く变化しなかった

Q14. 卒業してから今まで、社会貢献活動やボランティアなどの活動(災害支援、子どもの学習支援、学会や協会の委員/役員、地域奉仕活動など)に参加しましたか。具体的に教えてください。

<専門看護師(CNS)・認定看護師(CN)の資格取得について伺います>

Q15. 以下の資格を取得している人は、該当するものをお選びください。

・ 専門看護師(CNS)資格:

がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援、在宅看護、遺伝看護、災害看護、放射線看護

・ 認定看護師(CN)資格:

救急看護、皮膚・排泄ケア、集中ケア、緩和ケア、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、訪問看護、感染管理、糖尿病看護、不妊症看護、新生児集中ケア、透析看護、手術看護、乳がん看護、摂食・嚥下障害看護、小児救急看護、認知症看護、脳卒中リハビリテーション看護、がん放射線療法看護、慢性呼吸器疾患看護、慢性心不全

＜東京医科大学医学部看護学科での教育について伺います＞

Q16. 以下は、「教育に関する卒業時到達目標」です。下記の内容について、現在、どの程度達成していますか。

- ① 人間の生命と尊厳を尊重し、高い倫理観に基づいた健全な援助的人間関係を形成できる
- ② 「自立と自律」に価値を置き、科学的根拠に基づく看護判断と看護実践ができる
- ③ 保健医療、看護、福祉サービスを統合的かつ継続的に提供するために必要なリーダーシップとマネジメントの能力を養う
- ④ 人々の生命や健康への脅威、生活の破たんに対して、幅広い視点から問題解決のための方策を考え、行動できる
- ⑤ 生涯にわたって看護専門職として自己研鑽する能力と、看護の価値や専門性を発展させ力を養う
- ⑥ 国際的な視野を持って、世界の人々の安全、健康と福祉に貢献できる能力を養う

4. かなり達成している
3. ある程度達成している
2. あまり達成していない
1. 全く達成していない

Q17. カリキュラムの満足度はいかがでしたか。

- ① 一般教育系科目の授業・実習（語学を除く）
- ② 語学の授業
- ③ 専門基礎科目：病気と治療、保健医療福祉の仕組み 例) 診断治療学、保健統計学
- ④ 専門科目：看護の基礎 例) 看護学概論、看護リテラシー I・II
- ⑤ 専門科目：生活環境と看護の対象 例) 健康生活支援論、看護対象論 I・II、看護初期実習
- ⑥ 専門科目：看護援助の方法 例) 治療看護技術論 I～III、看護展開実習 I～V
- ⑦ 専門科目：看護提供の仕組み 例) 看護システムマネジメント論、看護システム実習
- ⑧ 専門科目：グローバルヘルス 例) 災害看護論、国際看護活動論
- ⑨ 専門科目：看護の統合 例) 看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究
- ⑩ 専門科目：コミュニティヘルスケア 例) 地域看護学概論、地域看護学実習

5. 非常に満足
4. どちらかと言えば満足
3. どちらでもない
2. どちらかと言えば不満
1. 非常に不満

Q18. そのほか、カリキュラムや科目についてご意見があれば聞かせてください。

Q19. 在学中にもっと学んでおけば良かった、身につけておけば良かったことはどのようなことですか。

(複数回答)

1. 幅広い教養教育(文学・歴史など)
2. 外国語科目・外国語能力
3. 治療診断系や臨床医学の知識
4. 看護の専門的な知識
5. 看護の臨床技術
6. 論理的に考え、研究する力
7. その他(具体的に:)
8. 特になし

Q20. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、良かったと思う点について教えてください。

該当する項目について、「良かったと思う点」の内容を、具体的にお書きください。

1. 施設(具体的に:)
2. 教員(具体的に:)
3. 職員(具体的に:)
4. 部活やクラブ活動(具体的に:)
5. その他(具体的に:)
6. 特になし

Q21. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、改善すべきと思う点について教えてください。

該当する項目について、「改善すべきと思う点」の内容を、具体的にお書きください。

1. 施設(具体的に:)
2. 教員(具体的に:)
3. 職員(具体的に:)
4. 部活やクラブ活動(具体的に:)
5. その他(具体的に:)
6. 特になし

Q22. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、総合的にどのように感じていますか。

- ① 東京医科大学のカリキュラムに満足している
- ② 東京医科大学の教育内容に、全体として満足している
- ③ 東京医科大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている
- ④ 東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい

- 4. 非常にそう思う
- 3. ある程度そう思う
- 2. あまりそう思わない
- 1. 全くそう思わない

Q23. 東京医科大学の教育をより良くするためのご意見、または、東京医科大学へのご要望等を、自由にご記載ください。

本アンケート結果を公表した際にご連絡いたしますので、宜しければメールアドレスをお書きください。
(それ以外の目的には使用いたしません。)

どうもありがとうございました。

5. おわりに

東京医科大学卒業生アンケートは、卒業生の本学教育についての評価や卒業生の実績・キャリアを把握し、東京医科大学の教育プログラム改善を図るための資料とすることを目的に、看護学科卒業生約 493 名を対象として実施しました。貴重な時間を割いて、多くの質問に丁寧に回答いただいた卒業生の皆様に心より御礼申し上げます。

2015 年度に設立された東京医科大学教育 IR(Institutional Research)センターでは、「学修成果・教育成果を把握・検証する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づいた情報収集・分析として、アンケートや様々な指標をもとに学修成果・教育成果を把握・可視化する活動を継続的に行っています。卒業生アンケートもその一つに位置付けられます。本報告書が本学の教育の質保証のための情報（エビデンス）として活用されることを期待しています。

本調査は多くの方々のご協力により実施することができました。この場を借りてお礼申し上げます。東京医科大学看護同窓会には卒業生への連絡先を提供いただきました。看護同窓会会長石塚睦子先生にお礼申し上げます。本報告書を纏めるにあたっては、教育 IR センター専門委員会の先生方に貴重な助言を頂きました。皆様に感謝申し上げます。最後に、本アンケート調査は令和 4 年度東京医科大学 学長裁量経費【教育改善・改革支援】の援助を頂きましたことに御礼申し上げます。

今後も教育 IR センターの活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東京医科大学 教育 IR センター
センター長 増淵 伸一

◆調査総括・結果検討

東京医科大学 教育 IR センター 専門委員会

委員長 荒井 貞夫 (教育 IR センター・医学教育学分野) (～2023 年 3 月 31 日)

増渕 伸一 (教育 IR センター・物理学教室) (2023 年 4 月 1 日～)

副委員長 井上 茂 (公衆衛生学分野)

副委員長 小林 信 (看護学科 精神看護学)

委員 篠田 章 (生物学教室)

平山 陽示 (総合診療医学分野)

成瀬 和子 (看護学科 国際看護学)

瀬戸山 陽子 (教育 IR センター)

菰田 孝行 (教育 IR センター)

油川 ひとみ (教育 IR センター)

山本 佐知子 (教育 IR センター)

東京医科大学医学部医学科 卒業生アンケート 結果報告書

作成 東京医科大学 教育 IR センター

2023 年 8 月 発行

問い合わせ先

住所：東京都新宿区新宿 6-1-1

電話番号：03-3342-6111 内線：2072

メール：ir-cen@tokyo-med.ac.jp

